

2023年度
関西外国語大学大学院
外国語学研究科

博士前期課程・博士後期課程
(英語学専攻・言語文化専攻)

研究指導教員紹介

大学院 研究指導教員一覽

	英語学専攻	言語文化専攻
博士前期 課程	(P.1~11)	(P.12~29)
	ME-1 伊東 治己 … P.1	ML-1 新井 肇 … P.12
	ME-2 大庭 幸男 … P.2	ML-2 井尻 直志 … P.13
	ME-3 大室 剛志 … P.3	ML-3 小川 一夫 … P.14
	ME-4 岡田 伸夫 … P.4	ML-4 柿木 重宜 … P.15
	ME-5 菊池 清明 … P.5	ML-5 小嶋 典明 … P.16
	ME-6 小谷 克則 … P.6	ML-6 酒井 英一 … P.17
	ME-7 近藤 富英 … P.7	ML-7 鹿浦 佳子 … P.18
	ME-8 佐藤 恭子 … P.8	ML-8 滝川 好夫 … P.19
	ME-9 服部 典之 … P.9	ML-9 竹沢 幸一 … P.20
	ME-10 森岡 裕一 … P.10	ML-10 塚田 泰彦 … P.21
ME-11 山崎 のぞみ … P.11	ML-11 塚本 秀樹 … P.22	
	ML-12 辻井 宗明 … P.23	
	ML-13 林 美智代 … P.24	
	ML-14 益岡 隆志 … P.25	
	ML-15 A.Asian C. … P.26	
	ML-16 F.Blanco … P.27	
	ML-17 S.Kim … P.28	
	ML-18 靳 衛衛 … P.29	
博士後期 課程	(P.30~37)	(P.38~48)
	DE-1 伊東 治己 … P.30	DL-1 新井 肇 … P.38
	DE-2 大庭 幸男 … P.31	DL-2 井尻 直志 … P.39
	DE-3 大室 剛志 … P.32	DL-3 小川 一夫 … P.40
	DE-4 岡田 伸夫 … P.33	DL-4 柿木 重宜 … P.41
	DE-5 菊池 清明 … P.34	DL-5 小嶋 典明 … P.42
	DE-6 佐藤 恭子 … P.35	DL-6 滝川 好夫 … P.43
	DE-7 服部 典之 … P.36	DL-7 竹沢 幸一 … P.44
	DE-8 森岡 裕一 … P.37	DL-8 塚田 泰彦 … P.45
		DL-9 塚本 秀樹 … P.46
		DL-10 益岡 隆志 … P.47
	DL-11 靳 衛衛 … P.48	

(ふりがな) 氏 名	(いとう はるみ) 伊東 治己	最終保有 学 位	博士 (教育学)
① 研究分野・ 領域	外国語教育制度に関する研究		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>外国語教育という行為自体は人間の歴史と同じぐらい長い伝統がありますが、学校教育の中に本格的に位置づけられたのは 19 世紀になってからとされています。それ以来、外国語教育という教育的営みはその基盤となっている言語学や心理言語学をはじめとした諸科学の隆盛や社会的状況の変化に合わせて変遷を遂げています。日本の英語教育も同様です。昨今、小学校英語の教科化や大学入試改革をはじめとして、大きな改革が行われてきましたが、どんな改革であれ、単なる付け焼き刃的な改革ではなく、日本の英語教育を取り巻く社会的・教育的環境を考慮し、諸外国での外国語教育制度にも学びながら、システムとしての妥当性や実施可能性を慎重に吟味する必要があります。その作業を通して日本の英語教育が進むべき方向性について積極的に提言して行くことが求められています。この認識に立って、研究を進めています。</p>		
主な研究業績	<p>伊東治己 (2004) 「カナダでのイマージョン教育の成功実態と成功要因の分析—関係者に対する意識調査を中心に—」 『カナダ研究年報』 (日本カナダ学会) 第24号, 1-18.</p> <p>Ito, H. (2013). An analysis of factors contributing to the success of English language education in Finland: Through questionnaires for students and teachers. <i>Annual Review of English Language Education in Japan</i>, 24, 63-75.</p> <p>伊東治己 (2014) 『フィンランドの小学校英語教育—日本での小学校英語教科化後の姿を見据えて—』 研究社.</p> <p>伊東治己 (2018) 『フィンランドの大学における小学校英語担当教員養成システム』 溪水社.</p> <p>伊東治己 (2018) 「フィンランドにおけるCLIL(Content and Language Integrated Learning)に関する調査研究」 『四国英語教育学会紀要』 第38号, 1-16.</p>		
② 研究分野・ 領域	英語指導法に関する研究		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>教室で授業を担当する英語教師にとっては、日々の授業で英語をどう指導すべきかが重要な課題になっています。この課題に答えるべく、教育委員会や民間団体による多岐にわたる研修やワークショップが開催されていますが、最終的には教員一人ひとりが英語指導法について、経験だけに頼らず、諸科学の知見にも学びながら、明確な指導理念を持ち、日々の授業に繋げていく英語授業実践力を高めていく努力をすることが大切です。外国語教育制度に関するマクロ的研究に加えて、効果的な英語指導法の確立にむけての具体的方略についても研究しています。その中でも特に、文型指導、音読指導、発問指導、読解指導、4技能の統合的指導、CLILなどを中心に、研究を進めています。</p>		
主な研究業績	<p>伊東治己編著 (1999) 『コミュニケーションのための4技能の指導—教科書の創造的な活用法を考える—』 教育出版.</p> <p>伊東治己編著 (2008) 『アウトプット重視の英語授業』 教育出版.</p> <p>伊東治己 (2014) 「フィンランドと日本の高校生の英語学習意識の比較研究」 『四国英語教育学会紀要』 第34号, 1-16.</p> <p>伊東治己 (2016) 『インタラクティブな英語リーディングの指導』 研究社.</p> <p>Ito, H. (2018). Examining potentials of CLIL (Content and Language Integrated Learning) for English language education in Japan. <i>Journal of Inquiry and Research (Kansai Gaidai University)</i>, No. 108, 203-223.</p> <p>伊東治己 (2019) 『入門期からの英語文型指導—チャック文型論のすすめ—』 研究社.</p>		

(ふりがな) 氏 名	(おおば ゆきお) 大庭 幸男	最終保有 学 位	博士 (文学)
① 研究分野・ 領域	英語学・統語論・理論言語学・生成文法理論		
研究紹介・ 学生へのメ ッセージ	<p>英語学の中核的な研究分野として、統語論、意味論、音韻論があり、統語論には伝統文法・規範文法や学校文法の他に、理論言語学の生成文法理論があります。しかし、生成文法理論は、他の文法と比べて、理論の体系性、言語現象の説明力や分析力、言語データの豊富な蓄積度においては他の文法を抜きんできています。</p> <p>この理論は、MIT (アメリカ) のノーム・チョムスキー博士が1950年代に創設した研究分野で、子供の言語習得のメカニズムを明らかにしようとするものです。子供はことば(母国語)を1歳半から3歳ぐらいまでに理解し話すようになります。また、その習得の段階や特徴は殆どすべての子どもに当てはまります。この状況は、子供が自然と歩くようになるのと同じです。この理論は、このような子供の言語習得の特徴や方法を、子供は生まれながらに言語習得を可能にする文法(これを普遍文法という)をもっているという仮説のもとで説明しようとしています。</p> <p>普遍文法の解明はかなり進み、伝統文法・規範文法や学校文法では気付かれていなかった新しい言語事実や分析・説明方法を明らかにしてきました。例えば、語彙の特性や、名詞句、動詞句、形容詞句、副詞句などの構造や意味の特性や、時制文、非時制文の構造などを明らかにしています。さらに、wh-疑問文、話題化構文、中間構文、二重目的語構文などの各種構文の意味統語的な特徴も明らかにしています。そこに言語研究の面白さが広がっていきます。大学院生諸君とともに言語研究の醍醐味を味わいたいと思います。</p>		
主な研究業績	<p>『英語構文研究——素性とその照合を中心に——』(単著)英宝社、平成10年2月。 『言語の潮流』(編著)開拓社、平成11年12月。 『左方移動』(共著)研究社、平成14年3月。 『英語構文を探究する』(単著)開拓社、平成23年3月。 『意味と形式のはざま』(阪大英文学叢書6)(共編著)英宝社、平成23年5月。</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生へのメ ッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(おおむろ たけし) 大室 剛志	最終保有 学 位	文学修士・教育学修士
① 研究分野・ 領域	生成文法（概念意味論・動的文法理論）・英語語法文法		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>言語は人間の精神のありようを映し出す鏡です。その言語は形（音韻・統語）と意味の組み合わせでできています。その言語のうちの現代英語に限って研究しています。言語を研究する方法はいくつかありますが、現代英語の研究を通して「人間とはなんぞや」という問いの答えに少しでも近づきたいと思って研究しています。そのために、自然言語全てかつそのみに共通する生得的・遺伝的基盤である普遍文法を前提とした生成文法理論の立場をとっています。</p> <p>意味（概念）の世界は、非常に豊かです。その豊かな意味の極一部を自然言語の統語で切り取って表すこともあれば、他の媒体である音楽や絵画などで表すこともあります。Grab a cup.と言われても、その意味がわからなければ、カップを見ることも、カップをつかむこともできません。つまり、意味の世界は、視覚の世界や行為の世界と情報交換を行なっています。それどころか、さらに味覚、嗅覚、触覚、身体感覚、社会認知といった人間精神を形成する主要なモジュールと情報交換を行なっています。つまり、「意味は、人間精神の根幹を成す。」といっても過言ではありません。この意味の世界を一緒に探ってみませんか。</p> <p>具体的にどのようなことを最近研究しているかということ、現代英語の大規模電子コーパスを利用して、英語の構文における基本形と変種を中心に、補部と付加詞、構文イディオム、意味と形のミスマッチ、核から周辺への動的な展開の法則等に関する研究を行なっています。</p> <p>指導方針は、生成文法の思考法を深く理解した上で、生の言語資料を基に細かな言語事実をも観察でき（英語語法文法家としての能力）、記述でき（記述文法家としての能力）そして説明できる能力（生成文法家としての能力）を養成することです。いってみれば、英語語法文法から生成文法までできる能力の養成です。</p>		
主な研究業績	『入門 生成言語理論』（共著）ひつじ書房，2000年3月。 『意味論』（共著）朝倉書店，2012年8月。 『語はなぜ多義になるのか』（共著）朝倉書店，2017年3月。 『概念意味論の基礎』（単著）開拓社，2017年6月。 『ことばの基礎2 動詞と構文』（単著）研究社，2018年8月。		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(おかだ のぶお) 岡田 伸夫	最終保有 学 位	文学修士
① 研究分野・ 領域	学習英文法		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>どの言語にも形と意味を結びつける独自の決まりがあります。その決まりのことを文法と言います。コミュニケーションするには、文法だけでなく、談話や語用論の知識、人とコミュニケーションを図ろうとする態度、世界や話題に関する知識、思考力、判断力、表現力など多くのものがが必要です。しかし、文法がコミュニケーションを支える重要な要因の一つであることは疑いありません。英語教育界には、現在使われている学習英文法が全面的に正しく、コミュニケーションに役立つという前提があります。しかし、実際には、学習英文法には内容の面でも指導法の面でも改善の余地があります。学習英文法の研究では、英文法研究の成果を学習英文法にどのように取り入れるべきか、文法指導はどうあるべきかについて実証的に考察することが中心課題となります。</p>		
主な研究業績	<p>(2007)「形式偏重主義の克服と原理に基づく文法的説明」中村捷・金子義明(編)『英文法研究と学習文法のインターフェイス』東北大学大学院文学研究科.</p> <p>(2008)「学習英文法の内容と指導法の改善」木村健治・金崎春幸(編)『言語文化への招待』大阪大学出版会.</p> <p>(2010)「教育・学習英文法の内容と指導法の改善」岡田伸夫・南出康世・梅咲敦子(編)『英語研究と英語教育—ことばの研究を教育に活かす』英語教育学大系第8巻, 大修館書店.</p> <p>(2012)「学習英文法の内容と指導法—語と文法と談話」大津由紀雄(編)『学習英文法を見直したい』研究社.</p> <p>(2017)「学習英文法の内容の改善をめざして」今尾康裕・岡田悠佑・小口一郎・早瀬尚子(編)『英語教育徹底リフレッシュ—グローバル化と21世紀型の教育』開拓社.</p>		
② 研究分野・ 領域	英語教育学		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>英語教育学の研究テーマは、英語教育の目標(どのような英語、どのようなスキルをどの段階でどの程度習得すべきかなど)、外国語教育制度、自律学習者の育成、教員養成・研修制度、第1・第2言語習得、教材(検定教科書とそれ以外の教材、紙教材とそれ以外の教材)、カリキュラム、シラバス、指導法・指導技術、測定・評価、小学校英語教育、小中高大の連携、ALTとの協同授業、eラーニング、海外の外国語教育など、多岐にわたります。英語教育学の科学的研究を行うに当たっては、特定のテーマに焦点を置くこととなりますが、教育基本法第1章教育の目的及び理念を常に意識しながら研究を進めることが肝要です。</p>		
主な研究業績	<p>(1998)「言語理論と言語教育」大津由紀雄・坂本勉・乾敏郎・西光義弘・岡田伸夫『言語科学と関連領域』岩波講座言語の科学第11巻, 岩波書店.</p> <p>(2001)『英語教育と英文法の接点』美誠社.</p> <p>(2002)「言語の獲得2」大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則(編)『言語研究入門—生成文法を学ぶ人のために』研究社.</p> <p>(2010)「大学英語教育と初等・中等教育との連携」森住衛・神保尚武・岡田伸夫・寺内一(編)『大学英語教育学—その方向性と諸分野』英語教育学大系第1巻, 大修館書店.</p> <p>(2015)「英文法教育の目的と内容と方法」井村誠・拝田清(編)『日本の言語教育を問い直す—8つの異論をめぐる』三省堂.</p>		

(ふりがな) 氏 名	(きくち きよあき) 菊池 清明	最終保有 学 位	博士 (言語文化)
① 研究分野・ 領域	英語史・中世英語英文学・文体論		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>英語学は、大きく文献学的な歴史文法と構造主義の記述文法の二つに分けられます。前者の歴史文法の立場から、現代英語の諸相を通時的に分析し考察します。</p> <p>現代英語の用法における現象や問題点は、歴史的な視点から考察することによってより根源的に、そして本質的に解明することができます。語彙の意味変化、綴字法、統語論、文体論などの研究において通時的な視点を照射しながら分析し考察する態度は、それぞれの時代の社会と文化を背負った文人や著述家たちの精神活動を言語表現の上に究明することであり、体系的な英語学の基本をなすものです。様々な民族の侵略を経験した英語という言語の研究は、文献からの引用例に立脚しながら歴史的な観察を盛り込むことにより、その問題の解明に貢献できます。</p> <p>前期課程の講義では、英語史の流れの中で現代英語がどのような経緯で成立したのかを探り理解することによって、他のヨーロッパの諸言語とは異質の背景を持つ、興味深い現代英語の特質について共に考えます。また、現代英語についての基本的な知識を得ることによって、将来、英語に関わるどのような研究領域でも対応できる英語力を涵養します。</p> <p>主たる世界共通言語になりつつある英語とはどのような言語なのか、そのような言語を学修することはどのような意味を持つのか、こうしたことも視野に入れながら英語の歴史について考えたいと思います。</p>		
主な研究業績	<p>『中世英語英文学研究の多様性とその展望』(編著)、2021年、pp. 505、(春風社)</p> <p>『英語学シリーズII 英語史：現代英語の特質を求めて—多文化性と国際性』(編著)、(浪漫書房)、(2006年：改訂新版、2020年)、pp. 124</p> <p>『中世英語英文学III—中世イギリスロマンス 『ガウェイン卿と緑の騎士』』(訳)、(春風社) 2017年、pp. 231</p> <p>『英語学シリーズI 英語学：現代英語をより深く知るために—世界共通語の諸相と未来』(編著)、(春風社)、(2008年：改訂新版、2016年)、pp. 181</p> <p><i>The Sound of Literature: Aspects of Language and Style in The Owl and the Nightingale</i>, 2016年、Shunpusha, pp. 214</p> <p>『中世英語英文学I—その言語・文化の特質—』(春風社)、2015年、pp. 283</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(こたに かつのり) 小谷 克則	最終保有 学 位	博士 (英語学)
① 研究分野・ 領域	理論言語学、応用言語学 (教育工学)		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>私の研究分野は理論言語学と応用言語学 (コーパス言語学、教育工学) です。最近の研究の関心は後者にあり、収集・作成した言語データに基づき、その背後にある法則を探ることにあります。理論言語学ではヒトの言語器官に係るメカニズムを、応用言語学ではコンピュータにおける言語処理に係るメカニズムを探っています。理論言語学の研究対象は形態論・統語論 (いわゆる生成文法) であり、これまでに等位構造を中心に、日本語、英語、日本手話、アラビア諸語などを研究^{1, 2}などしてきました。応用言語学の研究対象は機械翻訳 (Machine Translation, MT) とコンピュータ支援言語学習 (Computer-Assisted Language Learning, CALL) であり、これまでに機械翻訳結果の評価法、辞書登録法、言語運用の評価法、学習者コーパスなどを研究³⁻¹²などしてきました。MTの研究では機械翻訳システムの問題点を特定する評価システム (日本語と英語が言語対の場合は一般文書対象、日本語と中国語が言語対の場合は特許申請文書対象) を開発しました。CALLの研究では「読む、書く、聴く、話す」といった言語運用技術の評価システムや各技能の教材の難易度判定 (いわゆる読みやすさのリーダビリティ判定など) システムを開発しました。</p>		
主な研究業績	<ol style="list-style-type: none"> Oshima, S. & K. Kotani. 2008. A minimalist analysis of coordination: Deconstructing the Coordinate Structure Constraint. <i>English Linguistics</i>, 25(2): 402-438. 小谷克則. 2009. 日本手話における等位構造. 日本手話学会第35回大会予稿集, pp. 33-37. Kutsumi, T., T. Yoshimi, K. Kotani, I. Sata, & H. Isahara. 2006. Expansion of machine translation bilingual dictionaries by using existing dictionaries and thesauruses. In <i>Proceedings of the 21st International Conference on Computer Processing of Oriental Languages: Beyond the Orient: the Research Challenges Ahead (ICCPOL'06)</i>, pp. 345-354. Uchimoto, K., K. Kotani, Y. Zhang, & H. Isahara. 2007. Automatic evaluation of machine translation based on rate of accomplishment of sub-goals. In <i>Proceedings of Human Language Technologies 2007: The Conference of the North American Chapter of the Association for Computational Linguistics</i>, pp. 33-40. Kotani, K., T. Yoshimi, T. Kutsumi, & I. Sata. 2009. Validity of an automatic evaluation of machine translation using a word-alignment-based classifier. In <i>Proceedings of the 22nd International Conference on Computer Processing of Oriental Languages. Language Technology for the Knowledge-based Economy (ICCPOL '09)</i>, pp. 91-102. Kotani, K., Yoshimi, T., & H. Isahara. 2010. Validation of a reading speed test for Japanese learners of English as a foreign language. In G. R. S. Weir & S. Ishikawa (eds.), <i>Corpus, ICT, and Language Education</i>. University of Strathclyde Publishing, Glasgow, UK., pp. 215-224. 吉見毅彦, 小谷克則, 九津見毅, 佐田いち子, 井佐原均. 2010. 単語アライメントを用いた英日機械翻訳文の流暢さの自動評価. <i>自然言語処理</i> 17(1): 7-28. Nagase, T., Tsukada, H., Kotani, K., Hatanaka, N., & Sakamoto, Y. 2011. Automatic error analysis based on grammatical questions." In <i>Proceedings of the 25th Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation</i>, pp. 206-215. 小谷克則, 吉見毅彦, 小谷志穂, 井佐原均. 2012. 統合的日本手話学習者コーパスの開発構想. <i>手話学研究</i> 21: 25-43. Kotani, K. & T. Yoshimi. 2016. A Corpus of writing, pronunciation, reading, and listening by learners of English as a foreign language. <i>English Language Teaching</i>, 9(9): 139-155 Kotani, K. & T. Yoshimi. 2017. A listenability index consisting of subjective judgment and objective evaluation. In <i>Proceedings of the 2017 9th International Conference on Education Technology and Computers (ICETC 2017)</i>, pp. 63-67. Kotani, K. & T. Yoshimi. 2017. Effectiveness of linguistic and learner features for listenability measurement using a decision tree classification. <i>The Journal of Information and Systems in Education</i>, 16(1): 7-11. 		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(こんどう とみひで) 近藤 富英	最終保有 学 位	修士 (教育学)
① 研究分野・ 領域	異文化理解とその英語教育への応用法		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>英語圏におけるコミュニケーション・スタイルの違いを基に、効果的なコミュニケーションのストラテジーを考察し、さらにそれらの英語教育への応用法について研究しています。言葉を使ったコミュニケーション行動の全体像を捉えるためには、その言葉が話されている文化の背景や価値観、認知方法の違いについての理解と研究が欠かせません。異文化間ではそういったフィルターを通して物事を判断してコミュニケーション行動をしているからです。誠実で丁寧だと思われる行動が、異なった文化においては不誠実で失礼なものとして受け取られることや、またその逆もあります。相手の文化を尊重しつつ自分の文化を効果的に伝えながら異質なものと共存法を探ることが目的です。</p> <p>ことばや文化の研究は、その性質上、一般的な傾向 (tendency) の研究となることが多いようです。さまざまな条件で解釈が異なることもありますが、そこに面白さもあります。細心かつ大胆に、それぞれの研究を進めてください。</p>		
主な研究業績	<p>言語のダイナミクス (文化評論出版、1984)、Review of Ellipsis in Japanese by John Hinds (Language Science, 1984)、ディスコースマーカーとしての“well”の機能とその種類 (『言語行動のバリエーション、文化評論出版、1991』、言葉のあやとりの中で (『英語教育』、1995-1997)、</p> <p>英語学習者のための音声指導の覚書 (信州大学人文科学論集31、1991)、アメリカにおける異文化理解教育の実情—ミシガン州イーストラランシング市の公立学校の場合 (『英語教育』、vol.48,no.1、2000)、アメリカの中学生の言語表現—アンケートに見る感謝と約束に遅れたときの謝り表現 (信州豊南短期大学紀要31、2013)、アメリカ人の発話を通して見る口語英語の実際(1) (信州大学全学教育機構言語教育センター報告書4、2015)、ノック・ノック・ジョークの英語の音尾寛容性と英語の発音のヒントについて (信州大学総合人間科学研究12、2018) 他。</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(さとう やすこ) 佐藤 恭子	最終保有 学 位	Ph.D. (Applied Linguistics)
① 研究分野・ 領域	第二言語習得		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>私の研究領域の第二言語習得は、学習者が第二言語を習得するのに、どのような要因が関係しているのかを考えるものです。教える側からではなく、学ぶ側の視点から言葉はどのように身につけられるのかを解明していきます。その際には、これまでの自分の英語の学習を振り返ることも重要になります。習得が難しいと思われる項目などを、いろいろな方法で検証する手法を学び、得られたデータを用いて習得に関わる問題を少しずつ解明していきましょう。また習得に影響を与えるものとしてどのようなものがあるかを、母語や普遍文法、学習者要因や指導法、教材といった幅広い観点から考察を加え、得られた成果を実際の指導に役立てられるよう展開していきたいと思えます。赤ちゃんは教えられなくてもなぜ母語を習得できるのか等素朴な疑問から研究テーマが見つかるかもしれません。少しずつ調べていく気持ちを持ち続けて頑張ってください。</p>		
主な研究業績	<p>①『英語心理動詞と非対格動詞の習得は何故難しいのか』(単著 2013年1月 溪水社) ②『英語学習者はe-learningをどう使っているのか-自律学習におけるメタ認知ストラテジー能力の養成に向けて』(共著 2014年2月 溪水社) ③『非対格動詞の受動化の誤用はなぜ起こるのか-*An accident was happened.をめぐって-』(単著 2015年3月 溪水社) ④『Can-Doで示す英語文法指導 -文法能力の習得実態調査を中心に- 』(単著 2017年3月 溪水社)</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏名	(はっとり のりゆき) 服部 典之	最終保有 学位	博士 (文学)
①	<p>研究分野・領域</p> <p>研究紹介・学生へのメッセージ</p>	<p>イギリス文学・イギリス小説・英語圏文学</p> <p>グローバル人材として世界で活躍するためには、実用英語を習得するのは不可欠ですが、それに加えて必須なのは英米文化に関する教養を身につけることです。例えば英米圏の人々と仕事であれ個人的であれコミュニケーションを行う際、相手はあなたがどの程度の教養を有しているかによって、敬意の払い方がガラッと変わります。例えば、話題が最近新作を出した日本人でありながらイギリス籍を持ちノーベル文学賞作家であるカズオ・イシグロになったとき、日本人なのに全く彼について知らない人は軽んじられてしまうでしょう。逆によく知っていると、人間的にリスペクトされるのです。</p> <p>文学は役に立たないと実業界の偉い人は言いますが、文学はドラマ、映画、ミュージカルなどに物語を提供しており、その影響は圧倒的です。巨人と人間の戦い、孤島でのサバイバル、魔法の世界の魅惑と脅威、これらは全て『ガリヴァー旅行記』『ロビンソン・クルーソー』『ハリー・ポッター』などの英文学の作品が原典となっています。人間同士の関係への洞察を得るためには、文学の勉強をすることが最も具体的な近道です。このような、基礎的かつ肝要な勉強を偉い人たちが疎かにすることが現代の様々な問題を引き起こしています。</p> <p>今一度原点に戻って、なんと言っても読んで楽しい英語圏小説を読んでみませんか。難しい研究も重要ですが、まずは物語を楽しめるとというのが、この勉強の最大の利点です。共に魅惑的な物語を読み解いていきましょう。</p>	
	主な研究業績	<ul style="list-style-type: none"> ・『詐術としてのフィクション——デフォーとスモレット』(2008) 英宝社 ・『<アンチ>エイジングと英米文学』(2013) 英宝社 ・『『ガリヴァー旅行記』徹底注釈』(2013) 研究社 ・『<i>Johnson in Japan</i>』(2021) Bucknell University Press ・(翻訳) ウェイン C. ブース『フィクションの修辞学』(1991) 書肆風の薔薇 ・(翻訳) ゲオルゲ・フォルスター『世界周航記 上 下』(2007) 研究社 	
②	研究分野・領域		
	研究紹介・学生へのメッセージ		
	主な研究業績		

(ふりがな) 氏 名	(もりおか ゆういち) 森岡 裕一	最終保有 学 位	博士 (文学)
① 研究分野・ 領域	アメリカ禁酒小説研究		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>19世紀に高まった禁酒運動の一環として、禁酒の勧めを物語形式で説く大量の文書が出回りました。元は大量飲酒者が悔悛するため自らの体験を告白したものでしたが、それがフィクション化し、一部は文学史に名を留めるものもあります。また、ホイットマン、ハリエット・ストウ、ポーら名高い詩人・小説家たちも禁酒小説と深い関わりを持っています。同時に進行した女性解放運動、奴隷解放運動とともに19世紀アメリカ社会の展開を考えるうえで重要なジャンルでありながら、いまだ研究が遅れている禁酒小説研究分析をとおして、たとえば、当時のジェンダー間のギャップ、結婚・離婚問題、社会改革運動と文学の関わりなど興味深いテーマを統一的にとらえることができます。また、20世紀、とくに「失われた世代」は禁酒法下に青年期を迎えた芸術家が多く、それがために多数のアルコール依存症者を輩出しています。芸術活動とアルコールを依存の観点で読みなおすことで、後のドラッグ文化の理解にもつながり、現代アメリカ文学と文化に違った光を当てることができます。</p>		
主な研究業績	<p>森岡裕一 (単著)、『ボトルと涙—19世紀アメリカ禁酒物語論』金星堂、2021年。 森岡裕一 (論文)、「家庭の呪縛—禁酒小説における離婚の不在」 『大庭幸男先生退職記念論集』英宝社、2015年。 森岡裕一 (単著)、『アメリカ文化のサプリメント』大阪大学出版会、2014年。 森岡裕一 (論文)、「説論と強制— T. S. アーサーの後期禁酒小説」『異相の時空間』英宝社、2011年。 森岡裕一 (論文)、「リグリーの怯え—『アンクル・トム的小屋』における男女の力学」 『英米文学の可能性』英宝社、2010年。 森岡裕一 (論文)、「ボトルと奴隷—『アンクル・トム的小屋』における支配と依存」 『メディアと文学が表象するアメリカ』英宝社、2009年。 森岡裕一 (共編著)、『「依存」する英米文学』英宝社、2008年。 森岡裕一 (共編著)、『新世紀アメリカ文学史』英宝社、2007年。 森岡裕一 (単著)、『飲酒/禁酒の物語学—アメリカ文学とアルコール』大阪大学出版会、2015。</p>		
② 研究分野・ 領域	アメリカ・モダニズム文学論		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>酒と文学の関係性の視点からモダニズム芸術家の人と作品を見直したいと考えています。酒の表象はいうまでもなく、アルコール依存にふれた箇所が見過ごされがちでありながら、作品テーマと大きな関わりを持つことが散見され、興味深い事実がいろいろと発見できます。フォークナー、ヘミングウェイ、フィッツジェラルド、オニールはもちろん、ウィリアムズ、チャーヴァーからベリマン、ローウエルらの詩人まで幅広く射程を拡げたいと考えています。</p>		
主な研究業績	<p>森岡裕一 (単著)『アメリカ文化のサプリメント』大阪大学、2014年。 森岡裕一 (項目担当)、『ヘミングウェイ大事典』勉誠出版、2012年。 森岡裕一 (項目担当)、『Encyclopedia of American Studies Online』Johns Hopkins University, 2012。 森岡裕一 (編著)、『西洋文学—理解と鑑賞』大阪大学出版会、2011年。 森岡裕一 (共編著)、『新世紀アメリカ文学史』英宝社、2007年。</p>		

(ふりがな) 氏名	(やまさき のぞみ) 山崎 のぞみ	最終保有 学位	博士 (文学)
① 研究分野・領域	談話研究・語用論		
研究紹介・学生へのメッセージ	<p>現在、口語英語コーパスを使って、英語の話し言葉の実態を探る研究をしています。自発的な日常会話を収集した話し言葉コーパスの編纂・拡充が進み、インフォーマルな会話の言語研究に取り組みやすくなりました。</p> <p>日常会話の書き起こしテキストを「読む」と、意味不明で支離滅裂と思える箇所が多々あります。かろうじて何の話をしているのか見当がついても、頻発する言い淀みや言い直し、不完全文、発話の重複（かぶり）などに邪魔されて、何が起きているのか完全に理解することはできません。しかし驚くことに、会話参加者は会話の進行に何の問題も感じていないのです。日常会話は、その時々コンテキストを反映しながら時間軸に沿って自然発生的に展開するという本質があり、読めば難しいですが聞けばすぐ分かる言語と言えます。</p> <p>「話し言葉文法」の解明が進み、従来の書き言葉に基づいた伝統文法では説明がつかない使用法が次々と明るみに出ました。私たちは会話という「待ったなし」の状況で、「相手がいるからこそ」の言語の使い方をしています。相づち一つとってもそうでしょう。言語を人と人のコミュニケーションや社会の営みの中でとらえると、これまで「間違い」や「例外」、「規格外」と思われていた言語現象にも重要な意味があることが見えてきます。コーパス研究によって、そのような言語現象にも一定の規則性やパターンがあることが分かってきました。</p> <p>院生の皆さんには、なぜだろう、どうしてだろうという興味・関心を大切にして、英語の一次資料やデータをじっくり観察する習慣を身につけてほしいと思います。幅広い知識や論理的思考能力も大事ですが、自分の耳と目を使って英語に向き合う地道な姿勢は、皆さんの今後の研究の支柱となるでしょう。一緒に英語の世界を探索するのを楽しみにしています。</p>		
主な研究業績	<p>『英語のエッセンス』、第7章「発話末のthoughが表す対人関係的意味」、大阪教育図書、2019</p> <p>『英語のスタイル—教えるための文体論入門』、第8章「会話のスタイル」、研究社、2017</p> <p>「付加疑問との連鎖関係からみたテール（右方転位構造）の機能—イギリス英語の会話コーパスを用いて—」、『英語コーパス研究』、第28号、2021</p> <p>「ターン交替／ターン継続に関わる発話末thoughの機能—イギリス英語の会話コーパスを用いて—」、『語用論研究』、第22号、2021</p> <p>‘Collocations and Colligations Associated with Discourse Functions of Unspecific Anaphoric Nouns’, <i>International Journal of Corpus Linguistics</i> 13:1, John Benjamins, 2008</p> <p>高校英語検定教科書『Vision Quest (論理・表現 I)』(2021)、『Vision Quest (英語表現)』シリーズ (2012～2017) (共著)、新興出版社啓林館</p>		
② 研究分野・領域			
研究紹介・学生へのメッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(あらい はじめ) 新井 肇	最終保有 学 位	修士 (学校教育学)
① 研究分野・ 領域	生徒指導論、カウンセリング心理学、教師教育学		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>児童生徒のいじめ防止や自殺予防、教師のバーンアウト（燃え尽き）などの問題を中心に、生徒指導・教育相談に関する理論と実践とを架橋する研究に取り組んでいます。特に、カウンセリングを活かした生徒指導実践の理論化、学校内外の連携に基づく協働的生徒指導体制の構築、教師のストレスとメンタルサポートに関する研究が、中心テーマです。</p> <p>現在、学校現場においては、生徒指導上の課題が山積するなかで、教師の力量の向上が求められています。しかし、ベテラン教師の大量退職と新人教師の大量採用が急速に進み、包括的な児童生徒支援としての生徒指導を行うための考え方や方法を継承・発展させていくことが難しい状況にあります。生徒指導の実践的指導力を向上させるためには、教師相互の経験を共有して実践的な知を積み重ねるとともに、研究によって裏づけられた理論知と実践知との往還を図ることが不可欠であると考えます。</p> <p>実践を切り拓くための理論の生成をめざし、様々な教育課題に主体的に取り組む「研究し実践する教師」の輪が、大学院での学びを通じて広がっていくことを願っています。</p>		
主な研究業績	<p>著書：</p> <p>『支える生徒指導の始め方：「改訂・生徒指導提要」10の実践例』（編著）教育開発研究所，2023年</p> <p>『コンパス教育相談』（共著）建帛社，2022年</p> <p>『子どもたちに“いのちと死”の授業を—一学校で行う包括的自殺予防プログラム—』（共著）学事出版，2020年</p> <p>『新しい時代の生徒指導を展望する』（共著）学事出版，2019年</p> <p>『「教師を辞めようかな」と思ったら読む本』（単著）明治図書，2016年</p> <p>『現代生徒指導論』（編著）学事出版，2015年</p> <p>『生涯学習時代の生徒指導・キャリア教育』（共著）教育出版，2013年</p> <p>『現場で役立つ生徒指導実践プログラム』（編著）学事出版，2011年</p> <p>『新訂増補 青少年のための自殺予防マニュアル』（共著）金剛出版，2008年</p> <p>『叱る生徒指導—カウンセリングを活かす—』（共著）学事出版，2003年</p> <p>『教師崩壊—バーンアウト症候群克服のために—』（単著）すずさわ書店，1999年</p> <p>論文：</p> <p>「コロナ禍におけるいじめの状況と対応の方向性」（単著）『生徒指導学研究』第21号pp.16-21，2022年</p> <p>「子どもの自殺予防と生徒指導—開発的生徒指導の視点から自殺予防教育を考える」（単著）『生徒指導学研究』第18号 pp.31-38，2019年</p> <p>「教員間の「同僚性」・「協働性」とチーム学校」（単著）『生徒指導学研究』第16号 pp.10-18，2017年</p> <p>「学校における自殺のポストベンション研修プログラムの開発及び実践に関する研究」（共著）『生徒指導学研究』第15号 pp.114-124，2016年</p> <p>「生徒指導の担い手としての新人教員のメンタルヘルス」（単著）『生徒指導学研究』第14号 pp.43-50，2015年</p> <p>「教員の職務環境の変化と教師教育の課題—生徒指導をめぐる状況を中心に—」（単著）『学校教育研究』第29巻 pp.57-69，2014年</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(いじり なおし) 井尻 直志	最終保有 学 位	文学修士
① 研究分野・ 領域	ラテンアメリカ文学		
研究紹介	<p>ラテンアメリカ文学は、1960年代のブーム以降、世界文学において重要な位置を占めるようになり、欧米のみならず日本の作家にも大きな影響を与えてきました。私が研究の対象としてきた作家は、ホルヘ・ルイス・ボルヘス（アルゼンチン）、マリオ・バルガス＝リョサ（ペルー）、フリオ・コルタサル（アルゼンチン）、マリア・ルイサ・ボンバル（チリ）、セサル・バリェホ（ペルー）、アレホ・カルペンティエル（キューバ）など、20世紀以降の詩人と小説家です。研究方法は主として言語論的なテキスト分析です。上記の作家の作品を、ロシア・フォルマリズムから構造主義そして脱構築にいたる批評理論を援用して分析してきました。とは言え、文学の研究方法は多様です。作家の個人史に焦点を当てる研究もあれば、作品と作家が生きた時代との関係を論じること、作家の思想と作品の関係を明らかにすることも、作品の受容のされ方が時代によってどのように変化して来たかを検証することも、いずれも文学研究です。私の主な研究方法はテキスト分析ですが、政治と文学の関係にも関心があり、フェミニズム批評やポストコロニアリズム批評も行います。現在進めている研究は、スペイン語小説における自由間接話法の文体的効果を明らかにすることです。</p>		
主な研究業績	<p>「小説の文体としての自由間接話法——スペイン語の場合——」(Southern Review 34, 2019) 「『密林の語り部』とナショナリズム小説——語りの構造をめぐって——」(HISPANICA 58, 2014) 「『失われた足跡』における二項対立の乗り越えの試み——『石蹴り遊び』との対比において——」(HISPANICA 56, 2012) 「バルガス＝リョサの小説におけるポリフォニーとリアリズム」(HISPANICA 55, 2011) “La escritura de María Luisa Bombal——en comparación con ciertos rasgos de la narrativa japonesa——” (The Journal of Intercultural Studies 36, 2009) 「『石蹴り遊び』: メタレベルの非在をめぐって」(HISPANICA 50, 2006) 『ホセ・マルティ選集1』(共訳, 日本経済評論社, 1998) 『ボルヘス詩集』(共訳, 思潮社, 1998)</p>		
② 研究分野・ 領域	スペイン文学		
研究紹介	<p>16世紀後半から17世紀前半は、スペイン文学史において黄金世紀と呼ばれる時代で、ロペ・デ・ベガ、カルデロン・デ・ラ・バルカ、フランシスコ・デ・ケベド、ルイス・デ・ゴンゴラといった多くの優れた作家が輩出しました。その黄金世紀を代表する作家ミゲール・デ・セルバンテス・サアベドラの作品が主たる研究対象です。なかでも『ドン・キホーテ』には現代小説に用いられている様々な手法がすでに用いられており、小説とは何かを考察するためには又と無い作品です。私の研究方法は、主として文体論を用いての作品分析ですが、ミハイル・バフチンのカーニバル論やポリフォニーの概念なども援用して、『ドン・キホーテ』や『模範小説集』を分析しています。</p>		
主な研究業績	<p>『セルバンテス全集第5巻／戯曲集』(共訳, 水声社, 2018) 『スペイン内戦と現在』(共著, ぱる出版, 2018) 『セルバンテス全集第4巻／模範小説集』(共訳, 水声社, 2017) 『スペイン文化読本』(共著, 丸善, 2016) 『現代スペインを知るための60章』(共著, 明石書房, 2013) 『スペイン文化事典』(共著, 丸善, 2011) 『現代スペイン読本』(共著, 丸善, 2008) 『スペイン内戦とガルシア・ロルカ』(共著, 南雲堂フェニックス, 2007)</p>		

(ふりがな) 氏 名	(おかわ かずお) 小川 一夫	最終保有 学 位	Ph.D. (Economics)
① 研究分野・ 領域	応用計量経済学、マクロ経済学、日本経済論		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>わが国は1980年代中頃から株価や地価が高騰し、資産バブルという状況を迎えました。しかし、1990年代に入りバブルがはじけて銀行部門に不良債権が発生して、日本経済は長い停滞期に入りました。この停滞期は、21世紀に入っても続き、この長期停滞期は「失われた10年（あるいは20年）」と呼ばれています。私の研究は、バブルや「失われた10年」がなぜ生じたのか、そのメカニズムを実証的に研究することです。そのためには日本経済が高度成長を謳歌していた1960年代まで遡って、経済活動を支える社会的なシステムの変遷に注目する必要があります。というも旧態依然のシステムの下では、いくら経済にイノベーションが発生しても、その効果は十分に発揮できないからです。このような視点の下、銀行、企業、家計の個別データまで遡って、これらのデータを活用して各部門の行動がどのように変化してきたのか、統計的な分析を行っています。さらに、安倍晋三前首相の経済政策であるアベノミクスが果たして日本経済を「失われた10年」から脱却させる救世主となったのか、その点についても批判的に検討を加えています。</p> <p>日本経済がこれまでどのように歩んできて、今後どのような方向に向かうのか、経済のデータを用いて分析することは、さまざまな興味深い発見をもたらしてくれます。</p>		
主な研究業績	<p>『対外不均衡のマクロ分析－貯蓄・投資バランスと政策協調－』（共著）東洋経済新報社、1987年9月。</p> <p>『資産市場と景気変動』（共著）日本経済新聞社、1998年4月。</p> <p>『大不況の経済学』（単著）日本経済新聞社、2003年4月。</p> <p>『「失われた10年」の真実』（単著）東洋経済新報社、2009年2月。</p> <p>『日本経済の長期停滞 実証分析が明らかにするメカニズム』（単著）日本経済新聞出版、2020年11月。</p> <p>“Why Commercial Banks Held Excess Reserves: The Japanese Experience of the Late 1990s,” <i>Journal of Money, Credit, and Banking</i>, Vol.39, No.1, February 2007, pp.241-257. (単著)</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(かきぎ しげたか) 柿木 重宜	最終保有 学 位	博士 (言語文化学)
① 研究分野・ 領域	近代言語学史に関する研究		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>近代日本における言語学の潮流を考える上で、最も重要な人物の一人として、言語学者藤岡勝二を挙げることができます。現在の私の研究テーマの一つに、藤岡勝二の言語思想の解明と言語学という学問の歴史の変遷を辿ることがあります。藤岡は、国語学の泰斗上田萬年から当時の東京帝国大学文科大学言語学科を継承した後、以降30年近くにわたり、言語学界を牽引してきました。その研究テーマは幅広く、日本語系統論、アルタイ文献学、ローマ字化国語国字問題、サンスクリット学、日本語教育等、様々な分野で活躍しています。しかしながら、未だ、彼の膨大な業績に対する本格的な研究は行われていません。現在は、藤岡の膨大な言語資料を解明する作業に取り組んでいます。院生の皆さんには、言語だけではなく、その背景にある文化、社会、さらには、研究分野に携わった人物にも注目して、自らが関心をもった事項について、徹底的に調査、研究をしてもらいたいと思います。各学問分野で関心を持ったテーマを、考察する力を養ってもらいたいことを期待しています。</p>		
主な研究業績	<p>柿木重宜 (2018) 『新・ふしぎな言葉の学—日本語学と言語学の接点を求めて—』京都：ナカニシヤ出版 柿木重宜 (2013) 『近代「国語」の成立における藤岡勝二の果たした役割について』京都：ナカニシヤ出版 柿木重宜 (2000) 『ふしぎな言葉の学』京都：ナカニシヤ出版</p>		
② 研究分野・ 領域	「国語」の成立に関する研究		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>普段、皆さんが何気なく使っている「国語」という名称は、小学校令により、1900(明治33)年に制定された教科目です。当時の国語国字問題は、国家的規模の問題でした。この頃、様々な分野の泰斗で構成された国語調査委員会が、当時の国語の方向性を考えていました。現在の私の研究テーマは、近代「国語」の成立事情を詳らかにすることです。当時は、正確な議事録も存在していませんでした。したがって、色々な資料を駆使しながら研究を進めていく必要があります。院生の皆さんには、講義で聞いた用語について、今一度深く考えてみてもらいたいと思います。「国語教育」と「日本語教育」とは、酷似しているようにみえますが、全く別の研究分野です。また、普段使っている日本語も、内省してみると、ある一定の法則があることに気づくはずで、留学生に日本語を教えると、日本語と外国語の違いに気づき、なぜ留学生が誤用をするのかが分かります。同様に、母語を日本語とする人たちが、外国語を学ぶときに、間違いやすい音韻、語彙、文法があるはずで、院生の皆さんには、ぜひ多くの言語を学び、言葉の不思議な側面、さらには国家語のような社会言語学に関わるテーマについても興味をもってもらいたいと思います。</p>		
主な研究業績	<p>柿木重宜 (2013) 『近代「国語」の成立における藤岡勝二の果たした役割について』京都：ナカニシヤ出版 柿木重宜 (2012) 『日本語再履修』京都：ナカニシヤ出版 柿木重宜 (2003) 『なぜ言葉は変わるのか—日本語学と言語学へのプロローグ—』京都：ナカニシヤ出版</p>		

(ふりがな) 氏名	(こじま のりあき) 小嶋 典明	最終保有 学位	博士 (法学)
①	研究分野・ 領域	労働法・労使関係	
	研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>小渕内閣から第一次安倍内閣まで、規制改革委員会の参与等 (special member) として雇用・労働法制の改革に従事するかたわら、国立大学の法人化 (2004年) の前後を通じて計8年間、就業規則の作成・変更等、人事労務の現場で実務に携わる。</p> <p>研究対象は、労働法の全領域に及ぶ。これまでの40年余りの間に10冊以上の著書を世に問うたほか、600本以上の論文等を公表。「法律の前に常識がある」との考え方のもとに、程良い規制の実現に努めてきた。</p> <p>現在、『文部科学教育通信』(月2回刊)に「新・現場からみた労働法」を連載中。</p>	
	主な研究 業績	<p>最近の著書は、以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 『職場の法律は小説より奇なり』(講談社セオリーブックス、2009年) 2 『労働市場改革のミッション』(東洋経済新報社、2011年) 3 『国立大学法人と労働法』(ジァース教育新社、2014年) 4 『労働法の「常識」は現場の「非常識」——程良い規制を求めて』(中央経済社、2014年) 5 『労働法改革は現場に学べ！——これからの雇用・労働法制』(労働新聞社、2015年) 6 『法人職員・公務員のための労働法72話』(ジァース教育新社、2015年) 7 『労働法とその周辺——神は細部に宿り給ふ』(アドバンスニュース出版、2016年) 8 『メモワール労働者派遣法——歴史を知れば、今がわかる』(アドバンスニュース出版、2016年) 9 『法人職員・公務員のための労働法 判例編』(ジァース教育新社、2018年) 10 『公務員法と労働法の交錯』(豊本治との共編著、ジァース教育新社、2018年) 11 『現場からみた労働法——働き方改革をどう考えるか』(ジァース教育新社、2019年) 12 『現場からみた労働法2——雇用社会の現状をどう読み解くか』(ジァース教育新社、2020年) 13 『現場からみた労働法3——コロナ禍の現状をどう読み解くか』(ジァース教育新社、2022年) 14 『労使関係法の理論と実務』(ジァース教育新社、2022年) 	
②	研究分野・ 領域		
	研究紹介・ 学生への メッセージ		
	主な研究 業績		

(ふりがな) 氏 名	(さかい ひでかず) 酒井 英一	最終保有 学 位	Ph.D. (Political Science)
① 研究分野・ 領域	国際政治理論・インド太平洋地域の国際関係		
研究紹介・ 学生への メッセージ	私は国際政治学者として、戦争と平和の問題を取り組んできました。「なぜ人間は戦争をするのか」「どのようにしたら永続的な平和を構築できるのか」が私の研究における一大テーマです。それらを説明するために、リアリズム (realism)、リベラリズム (liberalism)、コンストラクティビズム (constructivism) といった理論が存在します。それらに十分に注意を払いながらも、新しい理論的地平線を目指しています。ただし「理論 (theory)」だけでなく「経験的事例 (empirical case)」での検証を怠ると誤った理解が生じます。両方に目を配りながら、国際関係のダイナミズムを探求していくことが大事であると常に肝に銘じています。院生の皆さんと、このダイナミズムと一緒に研究して行くことを楽しみにしています。		
主な研究業績	<ul style="list-style-type: none"> • <i>Re-rising Japan: Its Strategic Power in International Relations</i>, eds. (New York: Peter Lang, 2017). • <i>The US-Japan Security Community: Theoretical Understanding of Transpacific Relationships</i> (London: Routledge, 2018). • グレン・D・ページ『殺戮なきグローバル政治学』(監訳)(ミネルヴァ書房 2019年) • <i>Alternative Perspectives on Peacebuilding: Theories and Cases Studies</i>, eds. (New York: Palgrave Macmillan, 2022). 		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(しかうら よしこ) 鹿浦 佳子	最終保有 学 位	修士 (英語学) MA (Linguistics)
① 研究分野・ 領域	日本語教育・日本語学・日本語教員養成・日本語教材開発		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>日本語教育では、体系的全体的に文法などを論じるパターンと、学習者の問題点に発する、または、指導上の問題意識に発する個別的な問題を論ずるパターンがあります。今は、後者に重点をおき、学習者の困難・問題点、あるいは教師の指導上の問題点などを解決したいと考えています。日本語教育の現場での具体的な事例や学習者への調査から得られた学習上の問題を取り上げ考察し、それを日本語教育に還元出来るよう試みています。</p> <p>常に学習者が効果的に日本語を習得し、教室外の多様な社会環境で実際に運用できるような教授法を追及していきたいと考えています。</p> <p>日本語教育を目指す皆さんとともに、言語に関する知識能力、教授に関する知識能力、日本語教育の背景をなす知識理解を基本とし、諸々の個別的な問題を論じていきましょう。</p>		
主な研究業績	<p>Japanese for You『英文実用日本語』(共著) 大修館 1988年10月</p> <p>「The Kansai Dialect in Formal Situations」(単著) 『中尾俊夫先生還暦記念論文集』1994年2月</p> <p>「関西の大学生の関西弁受容意識 -関西出身大学生と非関西出身大学生の意識調査をもとに-」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集第4号』1994年11月</p> <p>「関西外国語大学日本語教育実習について-報告と問題点-」(単著) 『関西外国語大学日本語教育論集第22号』2012年12月</p> <p>「関西外国語大学ホームステイプログラム-プログラムの改善のための基礎研究の必要性-」(単著) 『関西外国語大学日本語教育論集大23号』2013年12月</p> <p>「話者の視点に立った「やりもらい表現」の教授法:「感謝」を表す「くれる」と「依頼」を表す「もらう」」(共著)『関西外国語大学日本語教育論集第26号』2017年3月</p> <p>「教室から実際使用へ ロールプレイカードを用いた口頭能力育成の試み」(共著)『関西外国語大学日本語教育論集第27号』2018年3月</p> <p>“Practical Report on Japanese Learning Using Skit Activity in an Upper-beginners’ Class and a High-intermediate Class” 「初級後半と中級後半におけるスキットアクティビティを用いた日本語学習の実践報告」(共著) CAJLE 2019 Proceedings 2019年9月</p> <p>「留学生と日本人との日本語会話の誤用・使用調査」(共著)『関西外国語大学日本語教育論集第30号』2021年2月</p> <p>「関西外国語大学留学生別科のオンラインクラスへの挑戦と報告-コロナ禍の2020年春学期から2021年秋学期にかけて-」(単著)『関西外国語大学日本語教育論集第31号』2022年2月</p> <p>「海外協定大学にTAを派遣する“日本語インターン留学”プログラム -その歩みと検証-」(単著) 『関西外国語大学日本語教育論集第32号』2023年2月</p>		

(ふりがな) 氏 名	(たきがわ よしお) 滝川 好夫	最終保有 学 位	博士 (経済学)
① 研究分野・ 領域	金融経済論、ケインズ経済学		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>金融経済の大事業ごとに、一経済学者として生活者目線から世間に対する発信を行ってきた。小泉・竹中構造改革のときは『ケインズなら日本経済をどう再生する』（2003年）、郵政民営化のときは『あえて「郵政民営化」に反対する』（2004年）、『郵政民営化の金融社会学』（2006年）、『どうなる「ゆうちょ銀行」「かんぽ生保」』（2007年）、ライブドア事件のときは『「大買収時代」のファイナンス入門ーライブドア vs. フジテレビに学ぶ』（2005年）、リーマンショックのときは『資本主義はどこへ行くのか』（2009年）、『サブプライム危機ー市場と政府はなぜ誤ったか』（2010年）、『サブプライム金融危機のメカニズム』（2011年）、民主党政権誕生のときは『ケインズ経済学（図解雑学）』（2010年）、国際協同組合年のときは『大学生協のアイデンティティと役割ー協同組合精神が日本を救う』（2012年）、『信用金庫のアイデンティティと役割』（2014年）、アベノミクスのときは『アベノミクスと道徳経済』（2015年）、元号が変わる時には『平成から令和へ どうなる経済・政治・社会』（2020年）を刊行した。</p> <p>「ドクター（博士）」の語源は「研究仲間に入る」ことであり、研究仲間の中で、自らが何を提供（貢献）できるのかが問われる。まずは良い問題を設定し、次に同じ問題意識を共有している研究者（著書・論文）を見つけ、それらの先行研究を批判的にサーベイし、そしてそれらの先行研究に対する知的貢献（付加価値の創造）を行えばよいでしょう。</p>		
主な研究業績	<p>『現代金融経済論の基本問題 — 貨幣・信用の作用と銀行の役割 —』勁草書房、1997年7月。</p> <p>『ケインズなら日本経済をどう再生する』税務経理協会、2003年6月。</p> <p>『郵政民営化の金融社会学』日本評論社、2006年1月。</p> <p>『リレーションシップ・バンキングの経済分析』税務経理協会、2007年2月。</p> <p>『ケインズ経済学を読む：『貨幣改革論』『貨幣論』『雇用・利子および貨幣の一般理論』』ミネルヴァ書房、2008年3月。</p> <p>『資本主義はどこへ行くのか 新しい経済学の提唱』PHP研究所、2009年2月。</p> <p>『サブプライム危機 市場と政府はなぜ誤ったのか』ミネルヴァ書房、2010年10月。</p> <p>『図解雑学 ケインズ経済学』ナツメ社、2010年11月。</p> <p>『サブプライム金融危機のメカニズム』千倉書房、2011年3月。</p> <p>『企業組織とコーポレート・ファイナンス』ミネルヴァ書房、2011年3月。</p> <p>『信用金庫のアイデンティティと役割』千倉書房、2014年4月。</p> <p>『平成から令和へ どうなる経済・政治・社会』税務経理協会、2020年1月。</p> <p>『アダム・スミスを読む、人間を学ぶ。』ミネルヴァ書房、2022年8月。</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(たけざわ こういち) 竹沢 幸一	最終保有 学 位	Ph.D. (Linguistics)
① 研究分野・ 領域	日本語統語論、対照言語学		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>母語話者の頭の中には無限の文を産み出すことのできる無意識の言語知識が潜んでいます。生成文法研究の主目的は母語話者のそうした知識を明らかにすることですが、私は生成文法の観点から自らの母語である日本語の知識を内省を使って掘り起こすことに興味を持っています。また、母語だけでなく、英語をはじめとする外国語との対照言語学研究にも興味があり、日本語のデータを出発点として言語間の異同を統語構造の観点から体系的に分析することを目指しています。具体的には、次のようなトピックを中心に研究を行っています。</p> <p>○ <u>格と統語構造</u> 様々な構文に現れるガ・ヲ・ニといった格標識がどのような構造的条件の下で名詞句に付与されるのか。他言語の格表示との異同はどのようになっているか。</p> <p>○ <u>テンス・アスペクトと統語構造</u> ル・タといったテンス標識、テイルといったアスペクト標識がどのように統語構造と関わっているのか。他言語のテンス・アスペクト形式との異同はどのようになっているか。</p> <p>○ <u>叙述と統語構造</u> 二次叙述・場所句叙述も含めて日本語の叙述関係はどのような構造的・形態的制約に従っているか。他言語の叙述のあり方との異同はどのようになっているか。</p> <p>○ <u>名詞化と統語構造・格付与</u> 日本語において節と名詞化形との対応はどのようになっているか。節内に生起する主格ガと名詞句内に生起する属格ノの統語的相違はどのようなものか。</p>		
主な研究業績	<p>○ <u>格と統語構造</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>A Configurational Approach to Case-marking in Japanese</i>. Ph.D. diss. Univ. of Washington. 1987. ・ 『日英語比較選書第9巻 格と語順と統語構造』 研究社. (共著) 1998. <p>○ <u>テンス・アスペクトと統語構造</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「受動文、能格文、分離不可能所有構文と「ている」の解釈」『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版. 1991. ・ 「見える」認識構文の統語構造とテ形述語の統語と意味」『語彙意味論の新たな可能性を探って』開拓社. 2015. ・ 日本語モーダル述語構文の統語構造と時制辞の統語的役割」『日英対照・文法と語彙への統合的アプローチ ー生成文法・認知言語学と日本語学ー』2016. <p>○ <u>叙述と統語構造</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ “Secondary predication and locative/goal phrases” <i>Japanese Syntax in Comparative Grammar</i>, Kurosio. 1993. ・ 『空間表現と文法』くろしお出版. (共編) 2000. ・ 「日本語の状態記述二次述部と統語範疇」 <i>KLS</i> 22. 2002. <p>○ <u>名詞化と統語構造・格付与</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ “Movement and the roles of Case and Agr in Japanese nominalization constructions” <i>Current Topics in English and Japanese</i>. Hituzi Shobo. 1994. 		
② 研究分野・領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(つかだ やすひこ) 塚田 泰彦	最終保有 学 位	博士 (教育学)
① 研究分野・ 領域	言語教育学 (リテラシー教育論 読書科学 国語科教育論 言語教育思想)		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>言語教育研究は、応用言語学的アプローチによって行われることが多く、とくに外国語教育研究分野にあつてはその傾向が強かった。しかし、言語教育研究は、本来、学際的アプローチを前提としており、これまでも関連する多様な学問領域へ関心を深めながら、その成果を適宜応用する研究に支えられてきている。たとえば、母語教育としての日本の国語科教育分野にあつては学習者の言語生活の向上を旨として、日本語の様々な習得過程についての豊かな研究と実践の歴史がある。私は、主に日本語や英語の母語教育研究の領域で、とくに読み書き能力(リテラシー)の習得にかかわる「認知的・応用言語学的研究」を行ってきた。</p> <p>この博士前期課程では、母語と外国語の習得の関連性も含め、学習者の言語生活の本質に迫ることで言語教育をめぐる現代的課題の解決に向けた研究が行われることを期待している。読み・書き・聞き・話す活動ごとの研究から出発したり、言語哲学・教育学・心理学・社会学などの最新の知見からアプローチしたり、言語体系・言語生活・言語文化の視点から問題の所在を明確にしたり、特定の言語教育思想ないし言語教育理論家に学んだりして、自らの研究意欲を高めると同時に、自らの経験を踏まえたオリジナルな研究課題に取り組んでいただきたい。</p>		
主な研究業績	<p>『初等国語科教育』(共編著) 2018年、ミネルヴァ書房 『読む技術 ―成熟した読書人を目指して―』(単著) 2014年、創元社 『国語教室のマッピング』(編著) 2005年、教育出版 『語彙力と読書 ―マッピングが生きる読みの世界―』(単著) 2001年、東洋館出版社 『語彙指導の革新と実践的課題』(共著) 1998年、明治図書 「読書心理学・読書社会学の成果と展望」(単著) 2022年、全国大学国語教育学会編 『国語科教育学研究の成果と課題Ⅲ』溪水社、264-271頁 「国語科入門期における文字・つづりの指導上の課題」(単著) 2020年、人文科教育研究、第47号、53-67頁 「国語科教育におけるテキストと考えることの関係の再定位」(単著) 2016年、読書科学、第58巻第3号(通巻229号)、157-169頁 「読書の現在」(単著) 2016年、情報の科学と技術、66巻10号、508-512頁 「リテラシー教育における言語批評意識の形成」(単著) 2003年、教育学研究、第70巻第4号、484-497頁</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(つかもと ひでき) 塚本 秀樹	最終保有 学 位	博士 (文学)
研究分野・ 領域	言語学 (日本語・朝鮮語/韓国語・形態論・統語論・対照言語学・言語類型論)		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>自身の専門研究としては、言語の本質の解明を目指す「言語学」という学問分野の中で、日本語における語や文の仕組みについて、日本語だけを見ては気がつかないことを、別の言語である朝鮮語/韓国語 (以下、「朝鮮語」のみで表記) と対照することによって明らかにする、という日本語研究を行っています。</p> <p>皆さんは、中学・高校時代、英語と国語の授業時間ではどちらの方が好きだったでしょうか。私の場合は英語大好き、国語大嫌い少年でした。そんな私が現在はどのようにして上記のように日本語を中心とした言語学をやっているのか、と奇妙に思われるかもしれません。</p> <p>大学に入った私は、英語以外の外国語を専攻にしてもよいと思い、高校時代の恩師からの勧めもあって、朝鮮語を勉強していました。朝鮮語は構造上、日本語と非常によく似ている言語で、朝鮮語をやっていると、自ずと日本語にも目が行くようになります。また、大学時代に最も感銘を受けた先生から、今までに考えたこともない日本語に対する見方、分析の仕方を教わりました。英語や朝鮮語などと同様に、日本語を言わば外国語として見るのです。すると、これまで全然気がつかなかった現象が次々と見えてくる。頭をバットで殴られたような思いの連続でした。その時から私は日本語大好き青年になりました。</p> <p>また、世界中には数多くの言語が存在しています。様態は言語によって多種多様で異なります。とは言っても、言語は同じ人間が使っているものですから、奥深い意外なところに共通点があるのも事実です。日本語や朝鮮語を中心にアジアの諸言語においてどういふところが似ており、また違っているのか、ということも私の関心事の1つです。</p> <p>大学院生としての研究生生活が有意義なものになるかは、学問の世界でいかに遊び、楽しむことができるか、にかかっていると思います。皆さんもいっしょに、この不思議な「ことば」の世界で大いに遊び、楽しみましょう。</p>		
主な研究業績	<p>〈著書〉『名詞類の文法』(共著, くろしお出版, 2016)</p> <p>〈著書〉『〈日本語ライブラリー〉韓国語と日本語』(共著, 朝倉書店, 2014)</p> <p>〈著書〉『形態論と統語論の相互作用—日本語と朝鮮語の対照言語学的研究—』(ひつじ書房, 2012)</p> <p>〈著書〉『グローバル朝鮮語—朝鮮を学び, 朝鮮に学ぶ—』(共著, くろしお出版, 1996)</p> <p>〈編著書〉『日本語基本動詞用法辞典』(共著, 大修館書店, 1989)</p> <p>〈学術論文〉「日本語における単一格助詞『に』を伴う複合格助詞とそれに対応する朝鮮語の表現について—対照言語学からのアプローチ—」(藤田保幸・山崎誠(編)『形式語研究の現在』, 和泉書院, 2018)</p> <p>〈学術論文〉「日本語と朝鮮語における複合動詞としての成立・不成立とその様相—新影山説に基づく考察—」(影山太郎(編)『複合動詞研究の最先端—謎の解明に向けて—』, ひつじ書房, 2013)</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(つじい むねあき) 辻井 宗明	最終保有 学 位	博士 (言語学)
① 研究分野・ 領域	スペイン語学、歴史意味論		
研究紹介・ 学生への メッセージ	歴史意味論は、言葉の意味や使われ方がどのように変化してきたかを体系的に解明することを目的の一つとしています。私が特に興味をもっているのは、スペイン語の法・時制・アスペクト形式について時間を通してその意味機能の変遷を観察することです。言語のある形式の変化の要因は一つではなく重層的に関わっており、それはまさに絡まった複数の糸をほどいていく作業です。		
主な研究業績	<p>(1) 「中世スペイン語時制システムにおける絶対先時性と完了先時性の対立」『言語探求の領域-小泉保博士古希記念論文集』(大学書林、1996)</p> <p>(2) <i>Un estudio sobre las formas en -RA y -SE, y 'había + participio en el español medieval.</i>(関西外国語大学出版、1996)</p> <p>(3) 「Hube cantado は迂言形式か時制形式か -中世スペイン語散文における分析-」(『関西外国語大学研究論集』68、1998)</p> <p>(4) "DESPUES QUE Y DESPUES DE QUE referidos al pasado" (Lingüística Hispánica 31, 2008)</p> <p>(5) 「イスパノアメリカにおける過去指示después de queの法について -メキシコを中心に-」(『関西外国語大学研究論集』100、2014)</p> <p>(6) 「dijo queに従属する単純完了過去について」(<i>Hispánica</i> 62, 2018)</p> <p>(7) 「después (de) queにおける現在形と現在完了形の法について」(『関西外国語大学研究論集』111、2020)</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(はやし みちよ) 林 美智代	最終保有 学 位	歴史学修士
① 研究分野・ 領域	人文科学・史学・メキシコ前近代史		
研究紹介・ 学生への メッセージ	メキシコのミチョアカン州にあったタラスコ人社会が植民地支配を受けてどのように変容を遂げていくのかについて研究しています。植民地史に先住民は不可欠な要素ですが、研究対象はこれにとどまりません。統治制度、大土地所有制、貿易、カトリック信仰と土着信仰の関係性、クリオーリョによるアイデンティティの模索、混血の社会的位相など多様で、政治史、経済史、宗教史、文化史につながります。歴史研究は過去について研究する学問ですが、きわめて今日的な学問でもあります。人間が空間・環境・時代の制約の中で、如何なる選択と行動をしてきたのか、時代を経てもその本質を反復するものであることを、私たちが統合的に理解するためです。その理解の切り口に、政治や経済、宗教、文化の各歴史が位置づけられています。「今」を理解し、「未来」を展望するためにラテンアメリカ史を学んで下さい。		
主な研究業績	<ul style="list-style-type: none"> ・2006年 オクタビオ・パス『ソル・フアナ=イネス・デ・ラ・クルスの生涯—信仰の罫』 訳 林 美智代 土曜美術社出版販売 ・2007年「メキシコ・ミチョアカン先住民社会の近代—国家の干渉と先住民村落の変容」 石黒馨・上谷博編『グローバルとローカルの共振—ラテンアメリカのマルチチュード』 人文書院 ・2008年「ミチョアカンにおける先住民の記憶—脱領土化を乗り越えて—」天理大学アメリカス学会編『アメリカス世界における移動とグローバル化—』天理大学出版部 ・2011年「近代における統治と先住民共同体—ミチョアカンにおける先住民体の永代財産解体」天理大学アメリカス学会編『アメリカス世界のなかのメキシコ』天理大学出版部 ・2014年「メキシコ植民地期の先住民コミュニティ—征服による「文明化」と自治区の創造」石黒馨・初谷譲次編『創造するコミュニティ—ラテンアメリカの社会関係資本』 晃洋書房 ・2019年「スペイン植民地前期におけるミチョアカンのタラスコ先住民と二重経済—先住民の人頭税に見られるスペイン重商主義の機制—」関西外国語大学研究論集 109号、pp.31-47. ・2021年「征服とタラスコ王国—16世紀ミチョアカンの先住民貴族の抗争に見られるエスニック集団の表出—」関西外国語大学研究論集 113号、pp.151~167. 		
② 研究分野・ 領域	人文科学・史学・ラテンアメリカの前近代		
研究紹介・ 学生への メッセージ	上記に記したメキシコ以外のスペイン領植民地の歴史を対象とします。研究対象の多様性と歴史研究の意義については上記に記したとおりです。スペインの植民地支配の普遍性と各地域の特殊性の相互関係を共に考察していきたいと思ひます。		
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(ますおか たかし) 益岡 隆志	最終保有 学 位	博士 (文学)
① 研究分野・ 領域	現代日本語学、日本語文法論		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>現代日本語がどのような仕組みで成り立っているのかを考察する現代日本語学のなかで、表現の形と意味の関係を明らかにすることを目標とする文法論を主たる専門にしています。日本語の文法の特徴を解明するには他言語の文法と比較対照するのが有効であることから、他言語との対照研究（対照言語学）にも関心を持っています。言語教育の実践において、日本語文法研究と対照研究は重要な手がかりを与えるものと考えています。</p> <p>日本語研究を目指す人は、言語の構造の基本をなす文法に対する理解が不可欠です。日本語研究のどの分野を選択する場合も、研究の基礎となる文法への理解を深めてほしいと思います。</p>		
主な研究業績	益岡隆志 (1987) 『命題の文法』東京：くろしお出版 益岡隆志 (1997) 『複文』東京：くろしお出版 益岡隆志 (2000) 『日本語文法の諸相』東京：くろしお出版 益岡隆志 (2007) 『日本語モダリティ探究』東京：くろしお出版 益岡隆志 (2013) 『日本語構文意味論』東京：くろしお出版 益岡隆志 (2021) 『日本語文論要綱』東京：くろしお出版		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏名	(アウレリオ・アシアイン・コルドバ) Aurelio Asiain Córdoba	最終保有 学位	Master's degree in Literature from the Instituto de Cultura Iberoamericana
①	研究分野・ 領域	スペイン語、メキシコ文学、ラテンアメリカ文学、ラテンアメリカの文化・歴史、詩の翻訳	
	研究紹介・ 学生への メッセージ	ラテンアメリカの現代詩 スペイン伝統の詩の形式の進化（14世紀から19世紀まで） 私は、広範囲にホルヘ・ルイス・ボルヘス、オクタビオ・パス、ホセ・レサマ・リマを中心とした作家、彼等と同世代の作家や次世代の多数の作家の作品についての論文を執筆しました。私の研究テーマは、「次世代の日本文学がラテンアメリカ文学に与えた文化的影響」です。	
	主な研究業績	I have published 16 books, between them: — <i>República de viento</i> , editorial Visor, Madrid, 1991; III Premio Internacional de Poesía Fundación Loewe a la Creación Joven (poesía); —現代メキシコ詩集 (<i>Gendai Mekishiko Shi-shu: Antología de la Poesía Mexicana contemporánea</i>) edición de Aurelio Asiain, Tadashi Tsuzumi y Yutaka Hosono), Dojobijutsusha, Tokio, 2004. — <i>Luna en la hierba. Medio centenar de poemas japoneses</i> , Hiperión, Madrid, 2007; (essay and translation of Japanese ancient poetry) — <i>Ikkyu Sojun. Un puñado de poemas</i> , Universidad Autónoma de Nuevo León, 2010. Translation and essay. — <i>Urdimbre</i> . Fondo de Cultura Económica, 2012 (poetry). — <i>La fronda</i> , Posdata editores, 2013 (aphorisms, short fiction, poetry). — <i>El espacio de pronto es escenario</i> . Artes de México, 2013 (essays and photographs on Japan). — <i>Lo que hay es la luz</i> . La Joplin / Consejo Nacional para la Cultura y las Artes, 2014. — <i>Japón en Octavio Paz</i> ; Fondo de Cultura Económica, 2014 (biographical essay and anthology). — <i>Centena de cien poetas. Hyakunin Isshu</i> . Universidad Veracruzana, México, 2015. A largely annotated Spanish new translation of the Japanese classic anthology.	
②	研究分野・ 領域	Japan–Latin America relations (specially México), Latin American cultural history, Mexican cultural history, Latin American literature, Mexican Literature, Translation.	
	研究紹介・ 学生への メッセージ	I have been studying the influence of Japanese literature in two major Hispanoamerican writers: Jorge Luis Borges and Octavio Paz. I am examining in detail the way they made indirect but remarkable translations, and how the successfully incorporated Japanese traditional forms to their work. I am also investigating how their approach was received in Japan. I am also tracing, in a more general way, the influence of Japanese literature in several other Latin American writers, from XVI century till now. Besides that, I am working (mostly rewriting) on a book of miscellaneous essays on Japanese culture bound to be published this Autumn. Finally, I am collecting a book of commented translations of poetry from English, French, Catalanian, Italian and Japanese to Spanish. These books is about to be published in Mexico.	
	主な研究業績	My last book is a 346 pages length study and anthology on the influence of Japanese literature on Octavio Paz. I am now rewriting it.	

(ふりがな) 氏 名	(ブランコ フェルナンド) BLANCO FERNANDO	最終保有 学 位	DOCTOR EN FILOSOFIA
① 研究分野・ 領域	Historia del pensamiento español del siglo XX		
研究紹介・ 学生へのメ ッセージ	Estudiar la filosofía española actual, o más exactamente los pensadores españoles del siglo XX, aunque pueda parecer una tarea estéril es, sin embargo, una de las que resultan más útiles y enriquecedoras académicamente, puesto que toda lengua encierra en sí un modo de pensar, una actitud vital. Al estudioso le cautivará el genio incisivo y torturado de Miguel de Unamuno y le encantará la visión de futuro de José Ortega y Gasset. Estas dos figuras representativas de la filosofía española son además grandes escritores. Las investigaciones en este campo no quedan limitadas a estos dos autores; la estela de discípulos (Zubiri, Marías, Zambrano, etc.) es igualmente atractiva, así como la pléyade de pensadores contemporáneos como Bueno, Savater o Molina entre otros.		
主な研究業績	<ul style="list-style-type: none"> — “Meditación de la técnica de Ortega y Gasset. 70 años después”, en <i>Cuadernos Canela</i> 15 (2004) 63-72 — “Cosas de Unamuno. Aclaraciones para lectores no nativos de «Del sentimiento trágico de la vida»”, en <i>Journal of Inquiry and Research</i> 82 (2005) 107-128 — “Japón visto por Unamuno” en <i>Actas del XLI Congreso Internacional de la Asociación Europea de Profesores de Español. 125 años del nacimiento de Picasso en Málaga</i> (2007) 329-339 — “Exégesis de un texto de Unamuno”, en <i>OGIGIA – Revista Electrónica de Estudios Hispánicos</i> 4 (2008) 19-23 — “Unamuno versus Raku” en <i>Actas del XLVIII Congreso Internacional de la Asociación Europea de Profesores de Español. El español en la era digital</i> (2014) 291-299 — “Estudio teórico-práctico sobre «Amor y pedagogía» de Miguel de Unamuno”, en <i>Journal of Inquiry and Research</i> 104 (2016) 83-95 		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(キムスンヨン) 金昇泳, Seung-young KIM	最終保有 学 位	Ph.D. (International Relations)
① 研究分野・ 領域	International History of East Asia in the 20 th century; Foreign Policy Analysis History of the US Foreign Relations; Japanese-French relations in the 20 th century		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>I have taught history and politics of international relations at British universities (Sheffield and Aberdeen) and Kansai Gaidai University after receiving my Ph.D. from the Fletcher School of Law and Diplomacy in 2003. I published a monograph about American diplomacy toward Northeast Asia (1882-1950) and articles about American, Japanese, and Korean diplomatic history in the 20th century. In recent years I have developed a new research focus on Japanese-French diplomacy from 1900 until 1933, which was closely related to international politics over China before the Second World War.</p> <p>Although I have adopted the historical method as the main mode of my research, I would be pleased to supervise students who wish to adopt theoretical or policy-relevant analysis. With regards to historical research, I can supervise students interested in transnational history as well if they wish to examine the interactions among people and non-state actors than inter-governmental relations.</p> <p>I have lived and worked in Britain, Japan, South Korea, and the United States, and have found that adopting an internationalist perspective and mindset is helpful for research and career development in the globalized job market. I hope to discuss all these issues with you, either in the classroom or at my office during consultation hours.</p>		
主な研究業績	<ul style="list-style-type: none"> - <i>American Diplomacy and Strategy toward Korea and Northeast Asia, 1882-1950 and After: Perception of Polarity and the US Commitment to a Periphery</i> (New York: Palgrave Macmillan, May 2009) - "American Elites' Strategic Thinking Towards Korea: From Kennan to Brzezinski," <i>Diplomacy & Statecraft</i>, 12:1 (March, 2001), pp. 185-212. - "Security, Nationalism, and the Pursuit of Nuclear Weapons and Missiles: South Korean Case, 1970-1982," <i>Diplomacy & Statecraft</i>, 12: 4 (December, 2001), pp. 53-80. - "Russo-Japanese Competition over Korean Buffer at the Beginning of the 20th Century," <i>Diplomacy & Statecraft</i> 16: 4 (December 2005), pp. 619-650. - "Japanese Diplomacy towards Korea in Multipolarity: History and Trend," <i>Cambridge Review of International Affairs</i>, 20: 1 (March 2007), pp. 159-178. - "Balancing Security Interest and 'Mission' to Promote Democracy: American Diplomacy toward South Korea since 1969," in Robert Wampler, ed., <i>Trilateralism and Beyond: Great Power Politics and the Korean Security Dilemma</i> (Kent, Ohio: Kent State University Press, 2012), pp. 50-87. - "The Rise and Fall of US Trusteeship Plan for Korea as Peace-maintenance Scheme, 1941-1947," <i>Diplomacy & Statecraft</i>, 24: 2 (June 2013), pp. 227-252. - "Miki-Takeo's Initiative on the Korean Question and the US-Japanese Diplomacy, 1974-76," <i>Journal of American-East Asian Relations</i>, 20: 4 (December 2013), pp. 377-405. - "Open Door or Sphere of Influence?: The Diplomacy of the Japanese-French Entente and Fukien Question, 1905-07" <i>International History Review</i>, 41: 1 (January 2019), pp. 105-129, etc. 		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(きん えいえい) 斬 衛衛	最終保有 学 位	言語・文化学修士
① 研究分野・ 領域	言語・文化比較対照研究		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>「言語・文化研究」というのは文化学と言語学の両観点からの研究方法です。文化学として研究するのは「ことばを指標に文化を探る学問」で、言語学としてすすめる研究は「ことばに文化的因子が刷り込まれているような現象を探求する学問」です。</p> <p>本研究はみなさんと一緒にこの二つの観点を特に区別することは意識せず、必要に応じてどちらの立場をも取り込みながら、中国語と日本語と英語の比較・対照を交えて、さまざまな具体例を豊富に取り上げて、「文化の中で息づいていることば」のあるがままの姿と向き合い、「人間の認識の様式」を探ることを試みます。</p>		
主な研究業績	<ul style="list-style-type: none"> ● 『走進日本—透視日本語言与文化』 2004 单著 北京語言大学出版社 ● 『中国語の「V+起・来」をめぐって—日本語の表現と対照研究—』 1994 单著 愛知大学文学論叢 ● 『漢日語中数量短語的対応関係』 1995 单著 愛知大学外語研紀要 ● 『中国語の悪態、罵詈』 1996 共著 日本語と中国語の対照研究第16号 ● 『漢語的「V+起・来j→d」与日語的「～シハジメル」』 1997 单著 北京大学出版社 ● 『現代漢語「VP+看」与日語「V+てみる」的比較』 1999 单著 華語教学出版社 ● 『日語漢字的演变』 2008 单著 日語学习与研究 ● 『汉日语言中人体词语的文化内涵』 2011 单著 高等教育出版社(中国) ● 『浅议中日广告语言与文化』 共著 2014年5月 『汉语国际教育第三辑』北京語言大学出版社 ● 『日中両言語における蓮、桃に関する慣用表現の対照研究』 2017年3月 共著 『中国語学論文集』白帝社 ● 『汉日语中“根”的隐喻认知』 共著 2019年6月 『中国語文法研究』 朋友書店 		
② 研究分野・ 領域	中国語学 初級・中級・上級の中国語教材開発		
研究紹介・ 学生への メッセージ	中国語の語彙、文法、意味、語用等の分野での研究 外国語学習者における中間言語の研究—教材開発への応用を意図して		
主な研究業績	<ul style="list-style-type: none"> ● 『談談「有+些+N」与「有+N+些」結構』 1997 单著 東方書店 ● 『論詞素可互為顛倒的双音節詞—以HSK語彙等級大綱為中心—』 2000 单著 関西外国語大学研究論集第72号 ● 『試析「看来」「看上去」「看样子」「看起来」』 2004 共著 関西外国語大学研究論集第80号 ● 『试析“暂时”和“一时”』 共著 2013年12月 『应用语言学研究论集第7輯』金泽大学 ● 中国語のエッセンス 共著 1995年2月 日本 同学社 ● やさしく・学ぼう・中国語 共著 2004年2月 日本 同学社 ● 快走中国語 共著 2005年2月 日本 白帝社 ● 快活中国語Ⅰ 共著 2010年1月 日本 郁文堂 ● 快活中国語Ⅱ 共著 2009年11月 日本 郁文堂 ● 好きです・中国語 共著 2015年4月 日本 朝日出版社 ● 遊学中級中国語 共著 2022年4月 日本 白帝社 		

(ふりがな) 氏 名	(いとう はるみ) 伊東 治己	最終保有 学 位	博士 (教育学)
① 研究分野・ 領域	外国語教育制度に関する研究		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>外国語教育という行為自体は人間の歴史と同じぐらい長い伝統がありますが、学校教育の中に本格的に位置づけられたのは19世紀になってからとされています。それ以来、外国語教育という教育的営みはその基盤となっている言語学や心理言語学をはじめとした諸科学の隆盛や社会的状況の変化に合わせて変遷を遂げています。日本の英語教育も同様です。昨今、小学校英語の教科化や大学入試改革をはじめとして、大きな改革が行われてきましたが、どんな改革であれ、単なる付け焼き刃的な改革ではなく、日本の英語教育を取り巻く社会的・教育的環境を考慮し、諸外国での外国語教育制度にも学びながら、システムとしての妥当性や実施可能性を慎重に吟味する必要があります。その作業を通して日本の英語教育が進むべき方向性について積極的に提言して行くことが求められています。この認識に立って、研究を進めています。</p>		
主な研究業績	<p>伊東治己(2004)「カナダでのイマージョン教育の成功実態と成功要因の分析—関係者に対する意識調査を中心に—」『カナダ研究年報』(日本カナダ学会)第24号, 1-18.</p> <p>Ito, H. (2013). An analysis of factors contributing to the success of English language education in Finland: Through questionnaires for students and teachers. <i>Annual Review of English Language Education in Japan</i>, 24, 63-75.</p> <p>伊東治己(2014)『フィンランドの小学校英語教育—日本での小学校英語教科化後の姿を見据えて—』研究社.</p> <p>伊東治己(2018)『フィンランドの大学における小学校英語担当教員養成システム』溪水社.</p> <p>伊東治己(2018)「フィンランドにおけるCLIL (Content and Language Integrated Learning) に関する調査研究」『四国英語教育学会紀要』第38号, 1-16.</p>		
② 研究分野・ 領域	英語指導法に関する研究		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>教室で授業を担当する英語教師にとっては、日々の授業で英語をどう指導すべきかが重要な課題になっています。この課題に答えるべく、教育委員会や民間団体による多岐にわたる研修やワークショップが開催されていますが、最終的には教員一人ひとりが英語指導法について、経験だけに頼らず、諸科学の知見にも学びながら、明確な指導理念を持ち、日々の授業に繋げていく英語授業実践力を高めていく努力をすることが大切です。外国語教育制度に関するマクロ的研究に加えて、効果的な英語指導法の確立にむけての具体的方略についても研究しています。その中でも特に、文型指導、音読指導、発問指導、読解指導、4技能の統合的指導、CLILなどを中心に、研究を進めています。</p>		
主な研究業績	<p>伊東治己編著(1999)『コミュニケーションのための4技能の指導—教科書の創造的な活用法を考える—』教育出版.</p> <p>伊東治己編著(2008)『アウトプット重視の英語授業』教育出版.</p> <p>伊東治己(2016)『インタラクティブな英語リーディングの指導』研究社.</p> <p>Ito, H. (2018). Examining potentials of CLIL (Content and Language Integrated Learning) for English language education in Japan. <i>Journal of Inquiry and Research</i> (Kansai Gaidai University), No. 108, 203-223.</p> <p>伊東治己(2019)『入門期からの英語文型指導—チャック文型論のすすめ—』研究社.</p>		

(ふりがな) 氏 名	(おおば ゆきお) 大庭 幸男	最終保有 学 位	博士 (文学)
① 研究分野・ 領域	英語学・統語論・理論言語学・生成文法理論・言語学		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>生成文法理論の言語システムには、統語部門、音韻部門、意味部門という3つの部門があり、統語部門には併合（外的併合と内的併合）という操作があります。外的併合は語彙目録から選択された要素同士を結合させ新たな要素を派生し、その要素と別の語彙目録から選択された要素を結合させ、より大きな派生構造を構築する操作です。他方、内的併合は、外的併合によって派生された構造の中のある要素を取り出して、その構造の別の位置に移動させる操作です。さらに、この理論はフェイズやラベルという概念を導入するとともに、一般原理や規則・条件等をフェイズやラベルの適用システムや併合操作等に課すことによって、最終的に適切な文の構造を派生させるものです。</p> <p>生成文法理論では、このような仕組みを用いて、格の現象、移動現象、再帰代名詞や代名詞などの照応詞に係る言語現象等についての研究や、小節構文、中間構文、二重目的語構文、wh 疑問文、同族目的語構文、there 存在構文、場所格倒置構文、省略構文、比較構文等の各種構文の研究が行われています。たいへん興味深い研究成果がでています。大学院生諸君とともに言語研究の面白さを実感したいものです。</p>		
主な研究業績	<p>『英語構文研究——素性とその照合を中心に——』（単著）英宝社，平成10年2月。 『言語の潮流』（編著）開拓社，平成11年12月。 『左方移動』（共著）研究社，平成14年3月。 『英語構文を探求する』（単著）開拓社，平成23年3月。 『意味と形式のはざま』（阪大英文学叢書6）（共編著）英宝社，平成23年5月。</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(おおむろ たけし) 大室 剛志	最終保有 学 位	文学修士・教育学修士
① 研究分野・ 領域	生成文法 (概念意味論・動的文法理論)・英語語法文法		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>言語は人間の精神のありようを映し出す鏡です。その言語は形 (音韻・統語) と意味の組み合わせでできています。その言語のうちの現代英語に限って研究しています。言語を研究する方法はいくつかありますが、現代英語の研究を通して「人間とはなんぞや」という問いの答えに少しでも近づきたいと思って研究しています。そのために、自然言語全てかつそのみに共通する生得的・遺伝的基盤である普遍文法を前提とした生成文法理論の立場をとっています (このことについては、下記の『入門 生成言語理論』 (共著) ひつじ書房, 2000年3月. で私自身が詳しく書いていますのでご参照下さい)。</p> <p>意味 (概念) の世界は、非常に豊かです。その豊かな意味の極一部を自然言語の統語で切り取って表すこともあれば、他の媒体である音楽や絵画などで表すこともあります。Grab a cup.と言われても、その意味がわからなければ、カップを見ることも、カップをつかむこともできません。つまり、意味の世界は、視覚の世界や行為の世界と情報交換を行なっています。それどころか、さらに味覚、嗅覚、触覚、身体感覚、社会認知といった人間精神を形成する主要なモジュールと情報交換を行なっています。つまり、「意味は、人間精神の根幹を成す。」といっても過言ではありません。この意味の世界を一緒に探ってみませんか (このことについては、下記の『意味論』 (共著) 朝倉書店, 2012年8月. 『語はなぜ多義になるのか』 (共著) 朝倉書店, 2017年3月. 『概念意味論の基礎』 (単著) 開拓社, 2017年6月. で私自身が詳しく書いていますのでご参照下さい)。</p> <p>具体的にどのようなことを最近研究しているかということ、現代英語の大規模電子コーパスを利用して、英語の構文における基本形と変種を中心に、補部と付加詞、構文イディオム、意味と形のミスマッチ、核から周辺への動的な展開の法則等に関する研究を行なっています (このことについては、下記の『ことばの基礎2 動詞と構文』 (単著) 研究社, 2018年8月. で私自身が詳しく書いていますのでご参照下さい)。</p> <p>指導方針は、生成文法の思考法を深く理解した上で、生の言語資料を基に細かな言語事実をも観察でき (英語語法文法家としての能力)、記述でき (記述文法家としての能力) そして説明できる能力 (生成文法家としての能力) を養成することです。いってみれば、英語語法文法から生成文法までできる能力の養成です。</p>		
主な研究業績	『入門 生成言語理論』 (共著) ひつじ書房, 2000年3月. 『意味論』 (共著) 朝倉書店, 2012年8月. 『語はなぜ多義になるのか』 (共著) 朝倉書店, 2017年3月. 『概念意味論の基礎』 (単著) 開拓社, 2017年6月. 『ことばの基礎2 動詞と構文』 (単著) 研究社, 2018年8月.		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(おかだ のぶお) 岡田 伸夫	最終保有 学 位	文学修士
①	研究分野・ 領域	学習英文法	
	研究紹介・ 学生への メッセージ	どの言語にも形と意味を結びつける独自の決まりがあります。その決まりのことを文法と言います。コミュニケーションするには、文法だけでなく、談話や語用論の知識、人とコミュニケーションを図ろうとする態度、世界や話題に関する知識、思考力、判断力、表現力など多くのものがが必要です。しかし、文法がコミュニケーションを支える重要な要因の一つであることは疑いえません。英語教育界には、現在使われている学習英文法が全面的に正しく、コミュニケーションに役立つという前提があります。しかし、実際には、学習英文法には内容の面でも指導法の面でも改善の余地があります。学習英文法の研究では、英文法研究の成果を学習英文法にどのように取り入れるべきか、文法指導はどうあるべきかについて実証的に考察することが中心課題となります。	
	主な研究業績	(2007)「形式偏重主義の克服と原理に基づく文法的説明」中村捷・金子義明(編)『英文法研究と学習文法のインターフェイス』東北大学大学院文学研究科。 (2008)「学習英文法の内容と指導法の改善」木村健治・金崎春幸(編)『言語文化への招待』大阪大学出版会。 (2010)「教育・学習英文法の内容と指導法の改善」岡田伸夫・南出康世・梅咲敦子(編)『英語研究と英語教育—ことばの研究を教育に活かす』英語教育学大系第8巻, 大修館書店。 (2012)「学習英文法の内容と指導法—語と文法と談話」大津由紀雄(編)『学習英文法を見直したい』研究社。 (2017)「学習英文法の内容の改善をめざして」今尾康裕・岡田悠佑・小口一郎・早瀬尚子(編)『英語教育徹底リフレッシュ—グローバル化と21世紀型の教育』開拓社。	
②	研究分野・ 領域	英語教育学	
	研究紹介・ 学生への メッセージ	英語教育学の研究テーマは、英語教育の目標(どのような英語、どのようなスキルをどの段階でどの程度習得すべきかなど)、外国語教育制度、自律学習者の育成、教員養成・研修制度、第1・第2言語習得、教材(検定教科書とそれ以外の教材、紙教材とそれ以外の教材)、カリキュラム、シラバス、指導法・指導技術、測定・評価、小学校英語教育、小中高大の連携、ALTとの協同授業、eラーニング、海外の外国語教育など、多岐にわたります。英語教育学の科学研究を行うに当たっては、特定のテーマに焦点を置くこととなりますが、教育基本法第1章教育の目的及び理念を常に意識しながら研究を進めることが肝要です。	
	主な研究業績	(1998)「言語理論と言語教育」大津由紀雄・坂本勉・乾敏郎・西光義弘・岡田伸夫『言語科学と関連領域』岩波講座言語の科学第11巻, 岩波書店。 (2001)『英語教育と英文法の接点』美誠社。 (2002)「言語の獲得2」大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則(編)『言語研究入門—生成文法を学ぶ人のために』研究社。 (2010)「大学英語教育と初等・中等教育との連携」森住衛・神保尚武・岡田伸夫・寺内一(編)『大学英語教育学—その方向性と諸分野』英語教育学大系第1巻, 大修館書店。 (2015)「英文法教育の目的と内容と方法」井村誠・拜田清(編)『日本の言語教育を問い直す—8つの異論をめぐる』三省堂。	

(ふりがな) 氏 名	(きくち きよあき) 菊池 清明	最終保有 学 位	博士 (言語文化)
① 研究分野・ 領域	英語史・中世英語英文学・文体論		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>英語学は、大きく文献学的な歴史文法と構造主義の記述文法の二つに分けられます。前者の歴史文法の立場から、現代英語の諸相を通時的に分析し考察します。</p> <p>現代英語の用法における現象や問題点は、歴史的な視点から考察することによってより根源的に、そして本質的に解明することができます。語彙の意味変化、綴字法、統語論、文体論などにおいて通時的な視点を照射しながら分析し考察する態度は、それぞれの時代の社会と文化を背負った文人や著述家たちの精神活動を言語表現の上に究明することであり、体系的な英語学の基本をなすものです。様々な民族の侵略を経験した英語という言語の研究は、文献からの引用例に立脚しながら歴史的な観察を盛り込むことにより、その問題の解明に貢献できます。</p> <p>後期課程の講義では、主に中英語期の文学テキストを精読しながら、語彙の意味、語法、綴字法、統語論などにおける変遷がどのような経緯を経て現代英語のものに至ったのかをそれぞれの言語表現を検証しながら探り求め、理解します。通時的な視点を得ることによって、現代英語の現象のみを観察しているだけでは理解できない現代英語についての多くの興味深い事実と新たな知見を探求したいと思います。</p>		
主な研究業績	<p>『中世英語英文学研究の多様性とその展望』(編著)、2021年、pp. 505、(春風社)</p> <p>『英語学シリーズII 英語史：現代英語の特質を求めて—多文化性と国際性』(編著)、(浪漫書房)、(2006年：改訂新版、2020年)、pp. 124</p> <p>『中世英語英文学III—中世イギリスロマンス 『ガウエイン卿と緑の騎士』』(訳)、(春風社) 2017年、 pp. 231</p> <p>『英語学シリーズI 英語学：現代英語をより深く知るために—世界共通語の諸相と未来』(編著)、(春風社)、(2008年：改訂新版、2016年)、pp. 181</p> <p><i>The Sound of Literature: Aspects of Language and Style in The Owl and the Nightingale</i>, 2016年、Shunpusha, pp. 214</p> <p>『中世英語英文学I—その言語・文化の特質—』、(春風社)、2015年、pp. 283</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(さとう やすこ) 佐藤 恭子	最終保有 学 位	Ph.D. (Applied Linguistics)
① 研究分野・ 領域	第二言語習得		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>第二言語を習得するのに、どのような要因が関係しているのかを、特に項構造の習得に焦点を当てて、日本人英語学習者を対象に、データを用いて実証的に考えていきます。例えば学校文法では5文型がお馴染みですが、それだけでは説明ができない構文も多くあります。動詞を中心とした構文のパターンという視点から考えると、より分かりやすい指導方法の開発にもつながっていきます。これまでの自分の英語学習を振り返り、習得が難しいと思われる項目などを、いろいろな方法で検証する手法を学び、得られたデータを用いて言語習得に関わる問題を少しずつ解明していきましょう。そして習得に影響を与えるものとしてどのようなものがあるかを、母語や普遍文法や学習者要因や指導法、教材といった言語以外の観点からも捉え、得られた成果を実際の指導に役立てられるよう展開していきたいと思えます。理論や実証研究で得られた成果を、実際の指導に役立てることが最終的な目標になります。素朴な疑問から出発して、少しずつ調べていく気持ちを持ち続けて頑張ってください。</p>		
主な研究業 績	<p>①『英語心理動詞と非対格動詞の習得は何故難しいのか』(単著 2013年1月 溪水社) ②『英語学習者はe-learningをどう使っているのかー自律学習におけるメタ認知ストラテジー能力の養成に向けて』(共著 2014年2月 溪水社) ③『非対格動詞の受動化の誤用はなぜ起こるのかー*An accident was happened.をめぐってー』(単著 2015年3月 溪水社) ④『Can-Doで示す英語文法指導 -文法能力の習得実態調査を中心に- 』(単著 2017年3月 溪水社)</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業 績			

(ふりがな) 氏 名	(はっとり のりゆき) 服部 典之	最終保有 学 位	博士 (文学)
① 研究分野・ 領域	イギリス小説・英語圏文学		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>グローバル人材として世界で活躍するためには、実用英語を習得するのは不可欠ですが、それに加えて必須なのは英米文化に関する教養を身につけることです。例えば英米圏の人々と仕事であれ個人的であれコミュニケーションを行う際、相手はあなたがどの程度の教養を有しているかによって、敬意の払い方がガラッと変わります。例えば、話題が最近新作を出した日本人でありながらイギリス籍を持ちノーベル文学賞家であるカズオ・イシグロになったとき、日本人なのに全く彼について知らない人は軽んじられてしまうでしょう。逆によく知っている、人間的にリスペクトされるのです。</p> <p>文学は役に立たないと実業界の偉い人は言いますが、文学はドラマ、映画、ミュージカルなどに物語を提供しており、その影響は圧倒的です。巨人と人間の戦い、孤島でのサバイバル、魔法の世界の魅惑と脅威、これらは全て『ガリヴァー旅行記』『ロビンソン・クルーソー』『ハリー・ポッター』などの英文学の作品が原典となっています。人間同士の関係への洞察を得るためには、文学の勉強をすることが最も具体的な近道です。このような、基礎的かつ肝要な勉強を偉い人たちが疎かにすることが現代の様々な問題を引き起こしています。</p> <p>今一度原点に戻って、なんと言っても読んで楽しい英語圏小説を読んでみませんか。難しい研究も重要ですが、まずは物語を楽しめるというのが、この勉強の最大の利点です。共に魅惑的な物語を読み解いていきましょう。</p>		
主な研究業績	<ul style="list-style-type: none"> ・『詐術としてのフィクション―デフォーとスモレット』(2008) 英宝社 ・『<アンチ>エイジングと英米文学』(2013) 英宝社 ・『『ガリヴァー旅行記』徹底注釈』(2013) 研究社 ・『<i>Johnson in Japan</i>』(2021) Bucknell University Press ・(翻訳) ウェイン C. ブース『フィクションの修辞学』(1991) 書肆風の薔薇 ・(翻訳) ゲオルゲ・フォルスター『世界周航記 上 下』(2007) 研究社 		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(もりおか ゆういち) 森岡 裕一	最終保有 学 位	博士 (文学)
① 研究分野・ 領域	アメリカ禁酒小説研究		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>19世紀に高まった禁酒運動の一環として、禁酒の勧めを物語形式で説く大量の文書が出回りました。元は大量飲酒者が悔悛するため自らの体験を告白したものでしたが、それがフィクション化し、一部は文学史に名を留めるものもあります。また、ホイットマン、ハリエット・ストウ、ポーら名高い詩人・小説家たちも禁酒小説と深い関わりを持っています。同時に進行した女性解放運動、奴隷解放運動とともに19世紀アメリカ社会の展開を考えるうえで重要なジャンルでありながら、いまだ研究が遅れている禁酒小説研究分析をとおして、たとえば、当時のジェンダー間のギャップ、結婚・離婚問題、社会改革運動と文学の関わりなど興味深いテーマを統一的にとらえることができます。また、20世紀、とくに「失われた世代」は禁酒法下に青年期を迎えた芸術家が多く、それがために多数のアルコール依存症者を輩出しています。芸術活動とアルコールを依存の観点で読みなおすことで、後のドラッグ文化の理解にもつながり、現代アメリカ文学と文化に違った光を当てることができます。</p>		
主な研究業績	<p>森岡裕一 (単著)、『ボトルと涙—19世紀アメリカ禁酒物語論』金星堂、2021年。 森岡裕一 (論文)、 「家庭の呪縛—禁酒小説における離婚の不在」 『大庭幸男先生退職記念論集』英宝社、2015年。 森岡裕一 (単著)、 『アメリカ文化のサプリメント』大阪大学出版会、2014年。 森岡裕一 (論文)、 「説論と強制—T.S.アーサーの後期禁酒小説『異相の時空間』英宝社、2011年。 森岡裕一 (論文)、 「リグリーの怯え—『アンクル・トム的小屋』における男女の力学」 『英米文学の可能性』英宝社、2010年。 森岡裕一 (論文)、 「ボトルと奴隷—『アンクル・トム的小屋』における支配と依存」 『メディアと文学が表象するアメリカ』英宝社、2009年。 森岡裕一 (共編著)、 『「依存」する英米文学』英宝社、2008年。 森岡裕一 (共編著)、 『新世紀アメリカ文学史』英宝社、2007年。 森岡裕一 (単著)、 『飲酒/禁酒の物語学—アメリカ文学とアルコール』大阪大学出版会、2005年。</p>		
② 研究分野・ 領域	アメリカ・モダニズム文学論		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>酒と文学の関係性の視点からモダニズム芸術家の人と作品を見直したいと考えています。酒の表象はいうまでもなく、アルコール依存にふれた箇所が見過ぎされがちでありながら、作品テーマと大きな関わりを持つことが散見され、興味深い事実がいろいろと発見できます。フォークナー、ヘミングウェイ、フィッツジェラルド、オニールはもちろん、ウィリアムズ、チャーヴァーからベリマン、ローウエルらの詩人まで幅広く射程を拡げたいと考えています。</p>		
主な研究業績	<p>森岡裕一 (単著) 『アメリカ文化のサプリメント』大阪大学、2014年。 森岡裕一 (項目担当)、 『ヘミングウェイ大事典』勉誠出版、2012年。 森岡裕一 (項目担当)、 Encyclopedia of American Studies Online, Johns Hopkins University, 2012. 森岡裕一 (編著)、 『西洋文学—理解と鑑賞』大阪大学出版会、2011年。 森岡裕一 (共編著)、 『新世紀アメリカ文学史』英宝社、2007年。</p>		

(ふりがな) 氏 名	(あらい はじめ) 新井 肇	最終保有 学 位	修士 (学校教育学)
① 研究分野・ 領域	生徒指導論、カウンセリング心理学、教師教育学		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>児童生徒のいじめ防止や自殺予防、教師のバーンアウト（燃え尽き）などの問題を中心に、生徒指導・教育相談に関する理論と実践とを架橋する研究に取り組んでいます。カウンセリングを活かした生徒指導実践の理論化、学校内外の連携に基づく協働的生徒指導体制の構築、教師に対するメンタルサポートの具体化が、研究の三つの柱です。</p> <p>なかでも、教師に対するメンタルヘルス支援を行うためのプログラムを学校の職場体制の中に組み込むための知見を得ることに重点を置いて、現在は研究を進めています。教師の意欲喪失、職場不適合、離職や自殺などの危機をバーンアウト（burnout）と捉え、その背景及び危機と回復のプロセスについて量的分析と質的分析とを有機的に結びつけて多面的に検討し、教師のメンタルヘルスの維持・向上への貢献を果たすことが研究の目的です。</p> <p>大学院生諸君が、大学院での研究を通じて、将来、教育実践を支えるための理論の生成をめざす「実践と理論を往還する研究者」となっていくことを願っています。</p>		
主な研究業績	<p>著書：</p> <p>『支える生徒指導の始め方：「改訂・生徒指導提要」10の実践例』（編著）教育開発研究所、2023年</p> <p>『コンパス教育相談』（共著）建帛社、2022年</p> <p>『子どもたちに“いのちと死”の授業をー学校で行う包括的自殺予防プログラムー』（共著）学事出版、2020年</p> <p>『新しい時代の生徒指導を展望する』（共著）学事出版、2019年</p> <p>『「教師を辞めようかな」と思ったら読む本』（単著）明治図書、2016年</p> <p>『現代生徒指導論』（編著）学事出版、2015年</p> <p>『生涯学習時代の生徒指導・キャリア教育』（共著）教育出版、2013年</p> <p>『現場で役立つ生徒指導実践プログラム』（編著）学事出版、2011年</p> <p>『新訂増補 青少年のための自殺予防マニュアル』（共著）金剛出版、2008年</p> <p>『叱る生徒指導ーカウンセリングを活かすー』（共著）学事出版、2003年</p> <p>『教師崩壊ーバーンアウト症候群克服のためにー』（単著）すずさわ書店、1999年</p> <p>論文：</p> <p>「コロナ禍におけるいじめの状況と対応の方向性」（単著）『生徒指導学研究』第21号pp.16-21、2022年</p> <p>「子どもの自殺予防と生徒指導ー開発的生徒指導の視点から自殺予防教育を考える」（単著）『生徒指導学研究』第18号pp.31-38、2019年</p> <p>「教員間の「同僚性」・「協働性」とチーム学校」（単著）『生徒指導学研究』第16号pp.10-18、2017年</p> <p>「学校における自殺のポストベンション研修プログラムの開発及び実践に関する研究」（共著）『生徒指導学研究』第15号pp.114-124、2016年</p> <p>「生徒指導の担い手としての新入教員のメンタルヘルス」（単著）『生徒指導学研究』第14号pp.43-50、2015年</p> <p>「教員の職務環境の変化と教師教育の課題ー生徒指導をめぐる状況を中心にー」（単著）『学校教育研究』第29巻 pp.57-69、2014年</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(いじり なおし) 井尻 直志	最終保有 学 位	文学修士
① 研究分野・ 領域	ラテンアメリカ文学		
研究紹介・ 学生への メッセージ	ラテンアメリカ文学の作品研究が主な研究分野です。ラテンアメリカ文学は60年代のブーム以降、世界文学において重要な位置を占めるようになり、欧米のみならず日本の作家にも大きな影響を与えてきました。私がこれまで研究の対象としてきた作家は、ホルヘ・ルイス・ボルヘス、フリオ・コルタサル、マリア・ルイサ・ボンバル、セサル・バリエホ、アレホ・カルペンティエル、マリオ・バルガス＝リョサなど、20世紀以降の詩人と小説家です。研究方法は、ロシア・フォルマリズムから構造主義そして脱構築にいたる批評理論を援用しての言語論的なテキスト分析が中心ですが、政治と文学の関係にも関心があり、フェミニズム批評やポストコロニアリズム批評も行います。現在進めている研究は、バルガス＝リョサの思想の変遷と語りの手法の変化との関係を明らかにすることです。		
主な研究業績	<p>「小説の文体としての自由間接話法——スペイン語の場合——」(Southern Review 34, 2019)</p> <p>『『密林の語り部』とナショナリズム小説——語りの構造をめぐって——』(HISPANICA 58, 2014)</p> <p>『『失われた足跡』における二項対立の乗り越えの試み——『石蹴り遊び』との対比において——』(HISPANICA 56, 2012)</p> <p>「バルガス＝リョサの小説におけるポリフォニーとリアリズム」(HISPANICA 55, 2011)</p> <p>“La escritura de María Luisa Bombal——en comparación con ciertos rasgos de la narrativa japonesa——” (The Journal of Intercultural Studies 36, 2009)</p> <p>『『石蹴り遊び』: メタレベルの非在をめぐって』(HISPANICA 50, 2006)</p> <p>『ホセ・マルティ選集 1』(共訳, 日本経済評論社, 1998)</p> <p>『ボルヘス詩集』(共訳, 思潮社, 1998)</p>		
② 研究分野・ 領域	スペイン文学		
研究紹介・ 学生への メッセージ	スペイン文学の作品研究が主な研究分野です。16世紀後半から17世紀前半は、スペイン文学史において黄金世紀と呼ばれる時代で、ロベ・デ・ベガ、カルデロン・デ・ラ・バルカ、フランシスコ・デ・ケベド、ルイス・デ・ゴンゴラといった多くの優れた作家が輩出しました。その黄金世紀を代表する作家ミゲール・デ・セルバンテス・サアベドラの作品が私の主たる研究対象です。なかでも『ドン・キホーテ』には現代小説に用いられている様々な手法がすでに用いられており、小説とは何かを考察するためには又と無い作品です。研究方法は、主として文体論を用いての作品分析ですが、ミハイル・バフチンのカーニバル論やポリフォニーの概念なども援用して、『ドン・キホーテ』や『模範小説集』を分析してきました。現在進めている研究は、スペイン語小説における自由間接話法の文体的効果を明らかにすることです。		
主な研究業績	<p>『セルバンテス全集第5巻／戯曲集』(共訳, 水声社, 2018)</p> <p>『スペイン内戦と現在』(共著, ぱる出版, 2018)</p> <p>『セルバンテス全集第4巻／模範小説集』(共訳, 水声社, 2017)</p> <p>『スペイン文化読本』(共著, 丸善, 2016)</p> <p>『現代スペインを知るための60章』(共著, 明石書房, 2013)</p> <p>『スペイン文化事典』(共著, 丸善, 2011)</p> <p>『現代スペイン読本』(共著, 丸善, 2008)</p> <p>『スペイン内戦とガルシア・ロルカ』(共著, 南雲堂フェニックス, 2007)</p>		

(ふりがな) 氏 名	(おがわ かずお) 小川 一夫	最終保有 学 位	Ph.D. (Economics)
① 研究分野・ 領域	応用計量経済学、マクロ経済学、日本経済論		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>わが国は1980年代中頃から株価や地価が高騰し、資産バブルという状況を迎えました。しかし、1990年代に入りバブルがはじけて銀行部門に不良債権が発生して、日本経済は長い停滞期に入りました。この停滞期は、21世紀に入っても続き、この長期停滞期は「失われた10年（あるいは20年）」と呼ばれています。私の研究は、バブルや「失われた10年」がなぜ発生したのか、そのメカニズムを実証的に研究することです。</p> <p>しかし、長期低迷のメカニズムを解明するためには、その時期に生じた経済現象のみに目を奪われるのではなく、経済活動を支える制度的な側面にも立ち入って分析のメスを入れる必要があります。というのも経済現象は金融機関、企業、家計といった経済主体が営む経済活動の結果ですが、どのような経済状況が現出するのかは、法制度や行政組織、また長年にわたって築き上げられた無形の取引慣行といった日々の経済活動を支える社会的なシステムに依存しているからです。</p> <p>予期せぬ大きな出来事が生じた場合、経済主体は新しい事態に対応すべく行動を変化させようとしませんが、その背後の経済システムはその変化に追いつかず両者の間に大きな乖離が生じます。このような場合には、当然経済パフォーマンスが大きく低下します。90年代以降の日本経済の長期低迷はこのような文脈でとらえる必要があります。</p> <p>このような視点から、銀行部門、企業部門、家計部門の個別データまで遡って、これらのデータを活用して各部門の行動がどのように変化してきたのか、統計的な分析を行っています。さらに、安倍晋三前首相の経済政策であるアベノミクスが果たして日本経済を「失われた10年」から脱却させる救世主となったのか、その点についても批判的に検討を加えています。</p> <p>日本経済がこれまでどのように歩んできて、今後どのような方向に向かうのか、経済のデータを用いて分析することは、さまざまな興味深い発見をもたらしてくれます。</p>		
主な研究業績	<p>『対外不均衡のマクロ分析－貯蓄・投資バランスと政策協調－』（共著）東洋経済新報社、1987年9月。</p> <p>『資産市場と景気変動』（共著）日本経済新聞社、1998年4月。</p> <p>『大不況の経済学』（単著）日本経済新聞社、2003年4月。</p> <p>『「失われた10年」の真実』（単著）東洋経済新報社、2009年2月。</p> <p>『日本経済の長期停滞 実証分析が明らかにするメカニズム』（単著）日本経済新聞出版、2020年11月。</p> <p>“Why Commercial Banks Held Excess Reserves: The Japanese Experience of the Late 1990s,” <i>Journal of Money, Credit, and Banking</i>, Vol.39, No.1, February 2007, pp.241-257. (単著)</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(かきぎ しげたか) 柿木 重宜	最終保有 学 位	博士 (言語文化学)
① 研究分野・ 領域	近代「言語学」成立過程の研究		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>現在の主たる研究テーマは、当時の資料を丹念に紐解きながら、近代「言語学」がいかに成立したのか解明することです。現在まで連綿と続く日本における「言語学」という学問分野は、元々、「博言学」と呼ばれ、後に、上田萬年を中心に言語学会が創設されます。この辺りの経緯は、言語学会の機関誌『言語学雑誌』という重要な文献を綿密に読み解いていかなければなりません。また、当時、この雑誌に寄稿した若き言語学徒として、後に各分野の泰斗と呼ばれる藤岡勝二、新村出、八杉貞利等がいます。日本における学問の黎明期の文献を読みこなすことは、近代言語学の実像を明らかにするために頗る重要な作業になってきます。</p> <p>院生の皆さんは、まず自らの研究分野を定めて、その射程範囲の論文を読み進めてほしいと思います。データベースを効率的に活用することも必要ですが、資料の言説を正確に読み取る能力を養うことも重要です。特に、博士後期課程では、博士号を最終的に提出することが目標です。先行研究を調べつくして、独自の論文に仕上がることを切に願っています。</p>		
主な研究業績	<p>柿木重宜 (2018)『新・ふしぎな言葉の学—日本語学と言語学の接点を求めて—』京都：ナカニシヤ出版</p> <p>柿木重宜 (2017)『日本における近代「言語学」成立事情 I』京都：ナカニシヤ出版</p> <p>柿木重宜 (2017)『日本語学トレーニング100題』京都：ナカニシヤ出版</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(こじま のりあき) 小 寫 典 明	最終保有 学 位	博士 (法学)
①	研究分野・ 領域	労働法・労使関係	
	研究紹介・ 学生への メッセー ジ	<p>小渕内閣から第一次安倍内閣まで、規制改革委員会の参与等 (special member) として雇用・労働法制の改革に従事するかたわら、国立大学の法人化 (2004年) の前後を通じて計8年間、就業規則の作成・変更等、人事労務の現場で実務に携わる。</p> <p>研究対象は、労働法の全領域に及ぶ。これまでの40年余りの間に10冊以上の著書を世に問うたほか、600本以上の論文等を公表。「法律の前に常識がある」との考え方のもとに、程良い規制の実現に努めてきた。</p> <p>現在、『文部科学教育通信』(月2回刊)に「新・現場からみた労働法」を連載中。</p>	
	主な研究 業績	<p>最近の著書は、以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 『職場の法律は小説より奇なり』(講談社セオリーブックス、2009年) 2 『労働市場改革のミッション』(東洋経済新報社、2011年) 3 『国立大学法人と労働法』(ジアース教育新社、2014年) 4 『労働法の「常識」は現場の「非常識」——程良い規制を求めて』(中央経済社、2014年) 5 『労働法改革は現場に学べ!——これからの雇用・労働法制』(労働新聞社、2015年) 6 『法人職員・公務員のための労働法72話』(ジアース教育新社、2015年) 7 『労働法とその周辺——神は細部に宿り給ふ』(アドバンスニュース出版、2016年) 8 『メモワール労働者派遣法——歴史を知れば、今がわかる』(アドバンスニュース出版、2016年) 9 『法人職員・公務員のための労働法 判例編』(ジアース教育新社、2018年) 10 『公務員法と労働法の交錯』(豊本治との共編著、ジアース教育新社、2018年) 11 『現場からみた労働法——働き方改革をどう考えるか』(ジアース教育新社、2019年) 12 『現場からみた労働法2——雇用社会の現状をどう読み解くか』(ジアース教育新社、2020年) 13 『現場からみた労働法3——コロナ禍の現状をどう読み解くか』(ジアース教育新社、2022年) 14 『労使関係法の理論と実務』(ジアース教育新社、2022年) 	
②	研究分野・ 領域		
	研究紹介・ 学生への メッセー ジ		
	主な研究 業績		

(ふりがな) 氏 名	(たきがわ よしお) 滝川 好夫	最終保有 学 位	博士 (経済学)
① 研究分野・ 領域	金融経済論、ケインズ経済学		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>金融経済の大事件ごとに、一経済学者として生活者目線から世間に対する発信を行ってきた。小泉・竹中構造改革のときは『ケインズなら日本経済をどう再生する』（2003年）、郵政民営化のときは『あえて「郵政民営化」に反対する』（2004年）、『郵政民営化の金融社会学』（2006年）、『どうなる「ゆうちょ銀行」「かんぽ生保」』（2007年）、ライブドア事件のときは『「大買収時代」のファイナンス入門ーライブドア vs. フジテレビに学ぶ』（2005年）、リーマンショックのときは『資本主義はどこへ行くのか』（2009年）、『サブプライム危機ー市場と政府はなぜ誤ったか』（2010年）、『サブプライム金融危機のメカニズム』（2011年）、民主党政権誕生のときは『ケインズ経済学（図解雑学）』（2010年）、国際協同組合年のときは『大学生協のアイデンティティと役割ー協同組合精神が日本を救う』（2012年）、『信用金庫のアイデンティティと役割』（2014年）、アベノミクスのときは『アベノミクスと道徳経済』（2015年）、元号が変わる時には『平成から令和へ どうなる経済・政治・社会』（2020年）を刊行した。</p> <p>「ドクター（博士）」の語源は「研究仲間に入る」ことであり、研究仲間の中で、自らが何を提供（貢献）できるのかが問われる。まずは良い問題を設定し、次に同じ問題意識を共有している研究者（著書・論文）を見つけ、それらの先行研究を批判的にサーベイし、そしてそれらの先行研究に対する知的貢献（付加価値の創造）を行えばよいでしょう。</p>		
主な研究業績	<p>『現代金融経済論の基本問題 — 貨幣・信用の作用と銀行の役割 — 』勁草書房、1997年7月。</p> <p>『ケインズなら日本経済をどう再生する』税務経理協会、2003年6月。</p> <p>『郵政民営化の金融社会学』日本評論社、2006年1月。</p> <p>『リレーションシップ・バンキングの経済分析』税務経理協会、2007年2月。</p> <p>『ケインズ経済学を読む：『貨幣改革論』『貨幣論』『雇用・利子および貨幣の一般理論』』ミネルヴァ書房、2008年3月。</p> <p>『資本主義はどこへ行くのか 新しい経済学の提唱』PHP研究所、2009年2月。</p> <p>『サブプライム危機 市場と政府はなぜ誤ったのか』ミネルヴァ書房、2010年10月。</p> <p>『図解雑学 ケインズ経済学』ナツメ社、2010年11月。</p> <p>『サブプライム金融危機のメカニズム』千倉書房、2011年3月。</p> <p>『企業組織とコーポレート・ファイナンス』ミネルヴァ書房、2011年3月。</p> <p>『信用金庫のアイデンティティと役割』千倉書房、2014年4月。</p> <p>『平成から令和へ どうなる経済・政治・社会』税務経理協会、2020年1月。</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏名	(たけざわ こういち) 竹沢 幸一	最終保有 学位	Ph.D. (Linguistics)
① 研究分野・ 領域	日本語統語論、対照言語学		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>母語話者の頭の中には無限の文を産み出すことのできる無意識の言語知識が潜んでいます。生成文法研究の主目的は母語話者のそうした知識を明らかにすることですが、私は生成文法の観点から自らの母語である日本語の知識を内省を使って掘り起こすことに関心を持っています。また、母語だけでなく、英語をはじめとする外国語との対照言語学研究にも興味があり、日本語のデータを出発点として言語間の異同を統語構造の観点から体系的に分析することを目指しています。具体的には、次のようなトピックを中心に研究を行っています。</p> <p>○ <u>格と統語構造</u> 様々な構文に現れるガ・ヲ・ニといった格標識がどのような構造的条件下で名詞句に付与されるのか。他言語の格表示との異同はどのようにになっているか。</p> <p>○ <u>テンス・アスペクトと統語構造</u> ル・タといったテンス標識、テイルといったアスペクト標識がどのように統語構造と関わっているのか。他言語のテンス・アスペクト形式との異同はどのようにになっているか。</p> <p>○ <u>叙述と統語構造</u> 二次叙述・場所句叙述も含めて日本語の叙述関係はどのような構造的・形態的制約に従っているか。他言語の叙述のあり方との異同はどのようにになっているか。</p> <p>○ <u>名詞化と統語構造・格付与</u> 日本語において節と名詞化形との対応はどのようにになっているか。節内に生起する主格ガと名詞句内に生起する属格ノの統語的相違はどのようなものか。</p>		
主な研究業績	<p>○ <u>格と統語構造</u> ・ <i>A Configurational Approach to Case-marking in Japanese</i>. Ph.D. diss. Univ. of Washington. 1987. ・ 『日英語比較選書第9巻 格と語順と統語構造』 研究社。(共著) 1998.</p> <p>○ <u>テンス・アスペクトと統語構造</u> ・ 「受動文、能格文、分離不可能所有構文と「ている」の解釈」『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版. 1991. ・ 「見える」認識構文の統語構造とテ形述語の統語と意味」『語彙意味論の新たな可能性を探って』開拓社. 2015. ・ 日本語モーダル述語構文の統語構造と時制辞の統語的役割」『日英対照・文法と語彙への統合的アプローチ ー生成文法・認知言語学と日本語学ー』2016.</p> <p>○ <u>叙述と統語構造</u> ・ “Secondary predication and locative/goal phrases” <i>Japanese Syntax in Comparative Grammar</i>, Kurocio. 1993. ・ 『空間表現と文法』くろしお出版。(共編) 2000. ・ 「日本語の状態記述二次述部と統語範疇」 <i>KLS</i> 22. 2002.</p> <p>○ <u>名詞化と統語構造・格付与</u> ・ “Movement and the roles of Case and Agr in Japanese nominalization constructions” <i>Current Topics in English and Japanese</i>. Hituzi Shobo. 1994.</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(つかだ やすひこ) 塚田 泰彦	最終保有 学 位	博士 (教育学)
① 研究分野・ 領域	言語教育学 (リテラシー教育論 読書科学 国語科教育論 言語教育思想)		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>言語教育研究は、本来、学際的アプローチを前提としており、これまでも関連する多様な学問領域へ関心を深めながら、その成果を応用する研究に支えられてきている。たとえば、母語教育としての日本の国語科教育分野にあっては学習者の言語生活の向上を目ざして、日本語の様々な習得過程についての豊かな研究と実践の歴史がある。私は、主に日本語や英語の母語教育研究の領域で、とくに読み書き (リテラシー) の習得にかかわる「認知的・応用言語学的研究」を行ってきた。</p> <p>この博士後期課程では、母語と外国語の習得の関連性も含め、学習者の言語生活の本質に迫ることで言語教育をめぐる現代的課題の解決に向けた研究の成果を期待している。読み・書き・聞き・話す活動ごとの研究から出発したり、言語哲学・教育学・心理学・社会学などの最新の知見からアプローチしたり、言語体系・言語生活・言語文化の視点から問題の所在を明確にしたり、特定の言語教育思想ないし言語教育理論家に学んだりして、自らの研究意欲を高めながら、各自が追究するテーマについて最新の成果をあげていただきたい。</p>		
主な研究業績	<p>『初等国語科教育』 (共編著) 2018年、ミネルヴァ書房 『読む技術 ー成熟した読書人を目指してー』 (単著) 2014年、創元社 『国語教室のマッピング』 (編著) 2005年、教育出版 『語彙力と読書 ーマッピングが生きる読みの世界ー』 (単著) 2001年、東洋館出版社 『語彙指導の革新と実践的課題』 (共著) 1998年、明治図書 「読書心理学・読書社会学の成果と展望」 (単著) 2022年、全国大学国語教育学会編『国語科教育学研究の成果と課題Ⅲ』 溪水社、264-271頁 「国語科入門期における文字・つづりの指導上の課題」 (単著) 2020年、人文学教育研究、第47号、53-67頁 「国語科教育におけるテキストと考えることの関係の再定位」 (単著) 2016年、読書科学、第58巻第3号 (通巻229号)、157-169頁 「読書の現在」 (単著) 2016年、情報の科学と技術、66巻10号、508-512頁 「リテラシー教育における言語批評意識の形成」 (単著) 2003年、教育学研究、第70巻第4号、484-497頁</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏名	(つかもと ひでき) 塚本 秀樹	最終保有 学位	博士 (文学)
研究分野・ 領域	言語学 (日本語・朝鮮語／韓国語・形態論・統語論・対照言語学・言語類型論)		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>自身の専門研究としては、言語の本質の解明を目指す「言語学」という学問分野の中で、日本語における語や文の仕組みについて、日本語だけを見ては気がつかないことを、別の言語である朝鮮語／韓国語 (以下、「朝鮮語」のみで表記) と対照することによって明らかにする、という日本語研究を行っています。</p> <p>皆さんは、中学・高校時代、英語と国語の授業時間ではどちらの方が好きだったでしょうか。私の場合は英語大好き、国語大嫌い少年でした。そんな私が現在はどのようにして上記のように日本語を中心とした言語学をやっているのか、と奇妙に思われるかもしれません。</p> <p>大学に入った私は、英語以外の外国語を専攻にしてもよいと思い、高校時代の恩師からの勧めもあって、朝鮮語を勉強していました。朝鮮語は構造上、日本語と非常によく似ている言語で、朝鮮語をやっていると、自ずと日本語にも目が行くようになります。また、大学時代に最も感銘を受けた先生から、今までに考えたこともない日本語に対する見方、分析の仕方を教わりました。英語や朝鮮語などと同様に、日本語を言わば外国語として見るのです。すると、これまで全然気がつかなかった現象が次々と見えてくる。頭をバットで殴られたような思いの連続でした。その時から私は日本語大好き青年になりました。</p> <p>また、世界中には数多くの言語が存在しています。様態は言語によって多種多様で異なっています。とは言っても、言語は同じ人間が使っているものですから、奥深い意外なところに共通点があるのも事実です。日本語や朝鮮語を中心にアジアの諸言語においてどういふところが似ており、また違っているのか、ということも私の関心事の1つです。</p> <p>大学院生としての研究生生活が有意義なものになるかは、学問の世界でいかに遊び、楽しむことができるか、にかかっていると思います。皆さんもいっしょに、この不思議な「ことば」の世界で大いに遊び、楽しみましょう。</p>		
主な研究業績	<p>〈著書〉『名詞類の文法』(共著, くろしお出版, 2016)</p> <p>〈著書〉『〈日本語ライブラリー〉韓国語と日本語』(共著, 朝倉書店, 2014)</p> <p>〈著書〉『形態論と統語論の相互作用—日本語と朝鮮語の対照言語学的研究—』(ひつじ書房, 2012)</p> <p>〈著書〉『グローバル朝鮮語—朝鮮を学び, 朝鮮に学ぶ—』(共著, くろしお出版, 1996)</p> <p>〈編著書〉『日本語基本動詞用法辞典』(共著, 大修館書店, 1989)</p> <p>〈学術論文〉「日本語における単一格助詞『に』を伴う複合格助詞とそれに対応する朝鮮語の表現について—対照言語学からのアプローチ—」(藤田保幸・山崎誠(編)『形式語研究の現在』, 和泉書院, 2018)</p> <p>〈学術論文〉「日本語と朝鮮語における複合動詞としての成立・不成立とその様相—新影山説に基づく考察—」(影山太郎(編)『複合動詞研究の最先端—謎の解明に向けて—』, ひつじ書房, 2013)</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏名	(ますおか たかし) 益岡 隆志	最終保有 学位	博士 (文学)
① 研究分野・ 領域	現代日本語学、日本語文法論		
研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>現代日本語がどのような仕組みで成り立っているのかを考察する現代日本語学のなかで、表現の形と意味の関係を明らかにすることを目標とする文法論を主たる専門にしています。日本語の文法の特徴を解明するには他言語の文法と比較対照するのが有効であることから、他言語との対照研究 (対照言語学) にも関心を持っています。言語教育の実践において、日本語文法研究と対照研究は重要な手がかりを与えるものと考えています。</p> <p>日本語研究を目指す人は、言語の構造の基本をなす文法に対する理解が不可欠です。日本語研究のどの分野を選択する場合も、研究の基礎となる文法への理解を深めてほしいと思います。</p>		
主な研究業績	<p>益岡隆志 (1987) 『命題の文法』東京：くろしお出版 益岡隆志 (1997) 『複文』東京：くろしお出版 益岡隆志 (2000) 『日本語文法の諸相』東京：くろしお出版 益岡隆志 (2007) 『日本語モダリティ探究』東京：くろしお出版 益岡隆志 (2013) 『日本語構文意味論』東京：くろしお出版 益岡隆志 (2021) 『日本語文論要綱』東京：くろしお出版</p>		
② 研究分野・ 領域			
研究紹介・ 学生への メッセージ			
主な研究業績			

(ふりがな) 氏 名	(きん えいえい) 斬 衛衛	最終保有 学 位	言語・文化学修士
①	研究分野・ 領域	言語・文化比較対照研究	
	研究紹介・ 学生への メッセージ	<p>「言語・文化研究」というのは文化学と言語学の両観点からの研究方法です。文化学として研究するのは「ことばを指標に文化を探る学問」で、言語学としてすすめる研究は「ことばに文化的因子が刷り込まれているような現象を探求する学問」です。</p> <p>本研究はみなさんと一緒にこの二つの観点を特に区別することは意識せず、必要に応じてどちらの立場をも取り込みながら、中国語と日本語と英語の比較・対照を交えて、さまざまな具体例を豊富に取り上げて、「文化の中で息づいていることば」のあるがままの姿と向き合い、「人間の認識の様式」を探ることを試みます。</p>	
	主な研究業績	<ul style="list-style-type: none"> ● 『走進日本—透視日本語与文化』 2004 单著 北京語言大学出版社 ● 『中国語の「V+起・来」をめぐって—日本語の表現と対照研究—』 1994 单著 愛知大学文学論叢 ● 『漢日語中数量短語的対応関係』 1995 单著 愛知大学外語研紀要 ● 『中国語の悪態、罵詈』 1996 共著 日本語と中国語の対照研究第16号 ● 『漢語的「V+起・来 j → d」与日語的「～シハジメル」』 1997 单著 北京大学出版社 ● 『現代漢語「VP+看」与日語「V+てみる」的比較』 1999 单著 華語教学出版社 ● 『日語漢字的演变』 2008 单著 日語学习与研究 ● 『汉日语言中人体词语的文化内涵』 2011 单著 高等教育出版社(中国) ● 『浅议中日广告语言与文化』 共著 2014年5月 『汉语国际教育第三辑』北京語言大学出版社 ● 『“特地”、“特意”与“わざわざ”等词的对比分析』 共著 2014年6月 『中国語文法研究』 朋友書店 ● 『日中両言語における蓮、桃に関する慣用表現の対照研究』 2017年3月 共著 『中国語学論文集』白帝社 ● 『汉日语中“根”的隐喻认知』 共著 2019年6月 『中国語文法研究』 朋友書店 	
②	研究分野・ 領域	中国語学 初級・中級・上級の中国語教材開発	
	研究紹介・ 学生への メッセージ	中国語の語彙、文法、意味、語用等の分野での研究 外国語学習者における中間言語の研究—教材開発への応用を意図して	
	主な研究業績	<ul style="list-style-type: none"> ● 『談談「有+些+N」与「有+N+些」結構』 1997 单著 東方書店 ● 『論詞素可互為顛倒的双音節詞—以 HSK 語彙等級大綱為中心—』 2000 单著 関西外国語大学研究論集第72号 ● 『試析「看来」「看上去」「看样子」「看起来」』 2004 共著 関西外国語大学研究論集第80号 ● 『试析“暂时”和“一时”』 共著 2013年12月 『应用语言学研究论集第7輯』金澤大学 ● 中国語のエッセンス 共著 1995年2月 日本 同学社 ● やさしく・学ぼう・中国語 共著 2004年2月 日本 同学社 ● 快走中国語 共著 2005年2月 日本 白帝社 ● 快活中国語Ⅰ 共著 2010年1月 日本 郁文堂 ● 快活中国語Ⅱ 共著 2009年11月 日本 郁文堂 ● 好きです・中国語 共著 2015年4月 日本 朝日出版社 ● 遊学中級中国語 共著 2022年4月 日本 白帝社 	